

事業計画書

1 運営ビジョン

(1) 地域における福祉保健活動拠点の役割について

区の施策を踏まえ、地域において福祉保健活動拠点の指定管理者として行うべき取組を、具体的に記載してください。

港北区社会福祉協議会（以下、本会）は、港北区福祉保健活動拠点の運営を通じて、区内の福祉保健活動団体の活動を支援するとともに、団体相互のネットワーク強化に努めます。

活動の場の提供を通じて、活動の継続性を担保するとともに、利用団体の活動内容やニーズ把握に努め、生活に根差した幅広い分野での地域課題の解決に努めます。

あわせて、数年来の課題とされている活動の担い手不足に対しては、テーマを絞った講座の開催等を通じて福祉保健活動人材の発掘・育成を進め、福祉活動の裾野を広げていきます。

拠点運営にあたっては、利用調整会議等で寄せられたご要望やご意見を積極的に反映させ、利用者ニーズに即した運営に努めます。また、港北区は公共施設に加え、地区が独自に設置した地区社協事務所が地域活動の拠点となっています。福祉保健活動拠点の指定管理者として、各々の拠点が引き続き有効に機能できるようにするとともに、ネットワーク構築と連携強化を一層進めます。

ネットワーク構築にあたっては、区内の福祉保健活動の情報収集・発信に留まらず、地域ケアプラザや市内17区社協及び横浜市社会福祉協議会（以下、市社協）等との情報共有を図り、「小地域～区域～市域」を重層的につなぐ連携の要としての役割を担います。

(2) 担当地域の特色、課題及び将来像並びにそれに係る取組について

地域住民や関係者と連携・協働して地域の魅力と課題を把握し、福祉保健活動拠点として課題解決のために行っていく取組について、具体的に記載してください。

港北区の地域的な特色として、20～30歳代の転出入が活発で単身者世帯も多く、近隣との関係性が希薄化しており、身近な地域における支えあい活動が重要なものとなっています。また、ボランティア活動や地域活動の担い手不足及び高齢化も課題となっています。

一方で、各地区の特性に応じた様々な見守り活動は活発に行われており、加えて、「ちょっとした困りごと」に対する生活支援型の取組や、地域食堂等を中心とした居場所づくりの活動も広がっています。

福祉保健活動拠点として、利用団体はもとより、区内で活動する福祉保健活動団体の活動内容や活動における課題を日々の関わりや事業を通じて把握し、関係機関と協働しながら、活動団体や地域の課題から共通課題の解決に向けて、計画的に研修や講演会等の事業展開を図ります。

あわせて、本会の特徴である会員組織を活かし、多様な主体が連携して解決に向けて取り組む場として、福祉保健活動拠点の有効活用を進めます。

2 団体の状況

(1) 団体の理念、基本方針及び事業実績等について

団体の理念や基本方針、事業実績等について、記載してください。

ア 法人の理念

本会は「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなで作ります」という活動理念の実現に向けて、会員組織としてのネットワークを生かした地域福祉活動を推進し、地域住民や関係機関とともに地域の支えあい活動等の共助の層を厚くする取組を広げています。

イ 基本方針（長期ビジョン・横浜市地域福祉保健計画、港北区地域福祉保健計画）

理念の実現に向けて本会では、市社協との協働により長期的な基本方針を定めた「長期ビジョン 2025」を平成 25 年 5 月に策定しました。これを具体的に推進するため 5 年を単位とする中期計画を策定し、その内容を区域計画に展開して取組を進めています。

また、港北区地域福祉保健計画については、「理解と参加のひろがりによる活発な地域づくり」「人のつながりで進める安心なまちづくり」「支援がとどく仕組みづくり」を柱とし、港北区役所と共同事務局として策定・推進に関わり、これらの計画を事業に反映して取組を進めています。

ウ 事業実績

提出書類（インデックス番号 11）の「平成 30 年度事業報告」のとおり各事業を実施し、「平成 31 年度事業計画」に基づき取組を進めています。

(2) 財務状況について

予算の執行状況、法人税等の滞納の有無及び財政状況の健全性等、安定した経営ができる基盤について、記載してください。

本会の財源は、福祉保健活動拠点運営に係る指定管理料のほか、会員からの会費、共同募金配分金、寄付金、市社協補助金及び受託金等様々な財源により構成されており、安定した経営ができる基盤を十分に確保したうえで、地域福祉推進にかかる様々な事業を実施しています。

一般会計の事業活動による収入が約 1 億 200 万円であり、全体の約 30%が共同募金配分金、指定管理料等の受託金が約 30%、市・県社協補助金が約 14%という構成です。その他、会費収入（正会費、賛助会費）や利用料収入（権利擁護事業、送迎サービス事業等）を得ています。

また、平成 30 年度の貸借対照表における流動資産と流動負債の割合は 10 : 1 であることから、短期的な支払い能力は問題ありません。自己資本比率（純資産/総資産）も健全性が高い状況を保持しています。平成 30 年度決算の収支差額がマイナスとなっていますが、共同募金配分金収入の減と業務委託費等の増によるもので、今後は改善が見込まれることから、継続的な運営に関する財政基盤は安定していると考えます。

また、常に費用対効果を意識するとともに、可能な限りのコスト削減に努め、今後も新たな課題や法人運営の基盤強化、適正な運営に力を入れ、より一層の業務改善・効率化に努めます。

なお、租税等については、市社協や税務署等の指示・指導に基づき適正な納付を行っており、納税漏れはありません。

3 職員配置・育成

(1) 職員の確保及び配置について

福祉保健活動拠点を運営していく上で、必要な職員の確保、適正な配置についての考えや計画を記載してください。

総括責任者は事務局長、管理運営責任者は事務局次長を充てるとともに、福祉保健活動拠点の運営担当として、常勤職員2名（拠点運営担当1名とボランティア事業担当1名）と非常勤職員のボランティアコーディネーター2名、拠点管理の非常勤職員4名を配置し、各部屋の利用対応やボランティア相談等を行います。※常勤職員は兼務

部屋の利用予約やボランティア保険等の受付事務は、拠点担当職員のみならず、すべての職員が同じ水準で対応できるよう、マニュアルの整備やOJTにより、知識の向上を図っています。その他朝夕礼や、定例会議等を通じて、運営上の課題の共有や業務改善、情報共有に努めています。

ア 常勤職員

採用・配置は市社協で一体的な人事管理を行っているため、法人全体で1,603名（常勤532名、非常勤1,071名 令和2年1月現在）の人材を有し、区社協や地域ケアプラザ等での地域福祉の実践経験、知識・資格を有する職員が多数在籍しています。

本会に勤務する常勤職員は、各所属において、ボランティアの育成・支援、協働、施設管理等の業務に従事し、豊富な経験と知識を有しています。指定管理業務に従事する職員には、ボランティアの育成支援の経験を有する職員等を配置し、福祉保健活動拠点の事業推進につなげます。

イ 非常勤職員

現在、配置している職員を継続して配置することで業務の継続性を担保します。新規採用にあたっては、ホームページやハローワークへの情報掲載等の公募により、公正・公平な人材確保を行います。また、地域の雇用創出の観点からも、可能な限り港北区在住者を採用するよう努めています。

(2) 育成・研修について

福祉保健活動拠点の機能を発揮するための人材育成及び研修計画について、記載してください。

ア 人材育成

市社協が定める「人材育成計画」に基づき、初任者から幹部まで職位毎の「求められる職員像」を具体的に提示し、年度当初に設定した個人目標に対して半期ごとに自己評価と上司からの評価・指導を行う等、人事考課制度を全常勤職員に対し実施しています。

また、新任職員の教育制度として「新人育成リーダー制度」を設け、職場における日常的なOJT（実務を通じての教育・訓練）体制を構築しています。

イ 職員研修

年間研修計画に基づき、職員の経験年数に応じた基幹研修や課題別研修、必要に応じて外部研修への派遣を市社協・区社協全体で体系的に実施します。

また、18区の福祉保健活動拠点及びボランティアセンターの担当者連絡会や研修を開催し、区社協ならではの横のつながりを活かした情報共有や業務改善、職員育成を行います。非常勤職員に対しては、接遇研修等を通じて接遇・マナーの向上に努めます。

ウ 職員会議・ミーティングの活用

毎月2回の定例職員会議にて、上記職員研修に参加した職員から伝達研修を行い、研修内容や成果を共有します。さらに拠点運営の担当職員（常勤・非常勤）の定例ミーティングを開催し、拠点運営に係る利用者の声や課題、新たにルール化すべき事項等について協議を行い、運営の改善や効率化に取り組みます。

| 【参考】令和元年度 職員対象研修（抜粋） | | |
|----------------------|-------------------|-------------------------|
| | 研修名 | 研修名 |
| 全体研修 | 職員全体研修 | 地域福祉実践研修(社協職員に求められる専門性) |
| | 人権研修 | コミュニティソーシャルワーク研修 |
| | コンプライアンス研修 | 身近な地域のつながり・支えあい活動推進事業研修 |
| 階層別研修 | 新任研修(採用時・フォローアップ) | コミュニティワーク研修 |
| | 新人育成リーダー研修 | 地域福祉活動推進者養成研修演習指導者養成研修 |
| | 2級職員研修 | 地区社会福祉協議会のおてびき研修 |
| | 主任職員研修 | 区地域福祉保健計画推進マネジメント研修 |
| | 新任管理職研修 | 区社協・区生活支援課自立相談支援機関合同研修 |
| | 管理職マネジメント研修 | 移動情報センター担当者向け研修 |
| 課題別研修 | 考課者研修 | ボランティア担当者向け研修 |
| | 文書・経理 | ボランティアコーディネーター研修 |
| | 労務管理 | 寄付文化醸成研修 |
| | 行政対象暴力対策 | 福祉教育担当者向け研修 |
| | 苦情解決 | 災害ボランティア担当者研修 |
| | メンタルヘルスとハラスメント防止 | 権利擁護担当者向け研修 |
| | 権利擁護の視点を学ぶ | |
| | サービス向上のための接遇・マナー | |
| | 個人情報保護 | |

4 施設の管理運営

(1) 施設及び設備の維持保全、管理及び小破修繕の取組について

利用者が施設を快適・安全に利用するため、及び長寿命化の観点から、施設・設備の維持管理に関する方針を記載してください。

ア 施設及び設備の維持保全

乳幼児から高齢者、障害者等、様々な方が利用する施設であるため、故障や不具合により利用に支障を来すことがないように、維持管理に努めるとともに、設備保全を計画的に実施します。

なお、本拠点が入居するビル共有部分の点検（消防設備・エレベーター等の法定点検含む）については、ビルオーナーが実施しており、適宜点検結果の報告を受けることとしています。

イ 小破修繕の取組

職員による定期的な点検により、簡易な修繕で済むものは早急の実施し、長寿命化を図ります。また、故障や不具合による影響を最小限に抑えるため、専門業者による定期点検を実施しています。

なお、本拠点が入居するビル共有部分の修繕については、ビル管理会社との調整により速やかに対応します。

ウ 備品管理の徹底

指定管理者として、備品台帳を整備し管理を徹底します。また、必要に応じて固定資産に登録し、適切に減価償却を行います。

(2) 事件事故等防止体制、緊急時の対応について

事件事故等の防止策及び事故発生時の対応や体制について、具体的に記載してください。

ア 事件事故等防止への取組

職員による定期的な巡回及び各部屋利用終了時の立会点検等により、設備・備品の故障や不具合を早期発見し、軽微な修繕に留まるよう努めます。

また、18区社協のネットワークを活かし、他区社協で発生した事件事故やヒヤリハット事例を職員間で共有することで、重大な事故等の発生を未然に防止します。

イ 防犯体制

開館中は、職員による定期的な巡回及び点検を実施し、安全な施設運営に努めます。業務時間外は機械警備を行い、異状発生時には委託先の警備会社が出動し、状況に応じて関係官署（警察・消防）や拠点統括責任者へ通報する体制を整えています。

ウ 事故発生時の対応

事故発生や急病人が出た場合には、事故対応マニュアルに基づき職員が状況を確認し、必要に応じて救急車の出動要請等を行い、適切かつ迅速に対応します。

また、自動体外式除細動器（AED）を設置し、緊急時に職員及び利用者が対応できるよう体制を整えています。

あわせて、事務所内に消防車・救急車の出動要請方法を掲示するとともに、職員の緊急連絡網を作成し、事故発生時の連絡体制を確保しています。

(3) 防災に対する取組

日常的な防災への取組の考え方について、記載してください。

ア 防災訓練等の実施

日常的な防災への取組として、消防計画に則り自主防災訓練を年2回実施しています。自主防災訓練は拠点利用調整会議と合わせて実施し、利用団体に加え、ビルに入居する他のテナントにも参加を呼び掛けています。

なお、訓練実施にあたっては、事前に避難経路や消防設備等の確認を行うとともに、AEDの使用方法に関する講習や搬送方法の実習、消防署による講話も取り入れています。

イ 災害発生時の対応

災害発生時には、危機管理マニュアルに基づき利用者を避難・誘導し、安全確保に努めるとともに、関係官署及び区役所等関係機関への通報を行い、迅速に対応することで二次災害の発生防止に努めます。

また、本会では災害発生時の連絡体制強化の一環として、平成29年度にIP無線を導入しており、市社協及び18区社協による通信訓練を定期的実施しています。

(4) 公正・中立性の確保について

公の施設として、市民及び団体等に対して、公正・中立な対応を図るための取組について記載してください。

ア 公正・中立な立場での情報提供

福祉保健活動拠点の特性を鑑み、常に区民や利用団体の立場に立った対応を心がけるとともに、職員会議や研修を通じて質の向上に努めます。また、ホームページ等を活用するほか、掲示板や配架用ラックを整備し、必要な人に必要な情報が届くようにします。あわせて、相談対応等において各種サービスに関する情報を提供する際には、相談者自らが選択できるよう、公正・中立な情報提供に努めます。

イ 情報ウェブアクセシビリティへの配慮

障害があっても利用しやすい拠点を目指し、コミュニケーションボードの活用やホームページを利用する全ての人が、身体的制約や利用している環境に関係なく、必要な情報が得られるように、アクセシビリティの確保に取り組みます。

ウ 拠点利用にあたって

拠点利用にあたっては事前登録制とし、登録申請書類により団体の活動目的や内容を確認したうえで、可否を判断しています。

また、登録後の利用申込は、月ごとに初回受付日を設け、複数団体で重複した際は公開抽選を行っています（初回受付日以降は先着順）。

貸出用ロッカーやメールボックスの利用も年度更新とし、利用調整会議に合わせて次年度利用申込を受け付け、設置台数を上回る申込があった場合には抽選により決定しています。

(5) 利用者のニーズ、要望及び苦情への対応について

利用者の意見、要望及び苦情をどのように把握し、改善していくのか、また要望や苦情を受けて迅速な対応ができる仕組みについて、具体的に記載してください。

ア 利用者のニーズ・要望への対応

各部屋利用終了時の点検や利用調整会議、窓口満足度調査の実施（年1回）、年間を通じた「ご意見箱」の設置により、利用者からの意見や要望を伺う機会を設けています。寄せられた意見・要望に対しては、職員会議や朝夕礼を活用し職員間で共有を図るとともに、対応策について協議します。

イ 苦情解決の仕組み

本会苦情解決規則に基づき、苦情に限らず要望等も含めて受付記録として供覧し、職員間で事実確認や対応の共有を図ります。

また、苦情解決責任者（事務局長）・苦情受付担当者（担当職員）を選任し、苦情受付の体制づくりを行うとともに、苦情解決研修や接遇研修等の受講と伝達研修を通じて全職員の資質向上に努めています。

さらに、市社協に法律・福祉・人権の各分野の専門家を委員とする苦情解決調整委員（第三者委員）を組織し、本会で解決・対応できなかった場合の調整や助言を行う仕組みを設けています。

(6) 個人情報保護、情報公開、人権尊重について

個人情報の保護や情報公開、人権尊重への取組について、具体的に記載してください。

ア 個人情報保護

個人情報保護法や横浜市個人情報保護に関する条例に基づき策定されている市社協の「保有する個人情報保護に関する規程」により、適切に個人情報を管理・活用します。

また、個人情報保護に関する研修を実施するとともに、取得する個人情報は必要最低限のものとし、不要となった情報は適切に廃棄処理する等、個人情報の適正な取扱いを徹底します。

管理については、個人情報の記載された書類は事務室内の書庫に保管し、終業時には施錠を徹底しています。各職員のパソコンはセキュリティワイヤーで固定するとともにパスワードをかけています。外部への個人情報の持ち出しは原則禁止としています。

イ 情報公開

本会事業計画・事業報告や決算関係財務諸表、定款、役員報酬基準、現況報告書等について、法令に基づきホームページや窓口への備置きにより公表し、随時閲覧できるようにしています。さらに、福祉保健活動拠点の第三者評価の結果等、重要な情報を公開し、積極的に情報公開に取り組めます。

また、利用者から本会の持つ情報について開示請求があった場合は、「本会の保有する情報の公開に関する規程」に基づいて、開示できる情報とできない情報を明確にし、迅速に対応します。

ウ 人権尊重

相談対応や事業の実施にあたっては、全職員が常に相手の立場に立って行動するよう努めます。また、社会福祉の従事者として、人権問題に対して正しい理解と認識を深め、人権尊重を基調として行動できることを目指して、市社協では人権研修を人材育成計画における基幹となる研修として位置付け、実施しています。

- (7) 環境への配慮、市内中小企業優先発注等、本市の重要施策を踏まえた取組について環境への配慮や市内中小企業優先発注、男女共同参画等に対する考え方について記載してください。

ア 環境への配慮

ごみの少量化・分別・リサイクルへの取組（ヨコハマ3R夢）を進めるため、ごみを排出する場合は適切に分別を行い、大切な資源としてリサイクルに取り組みます。また、リサイクルペーパーなどエコロジー商品を積極的に購入します。

地球温暖化への対応（横浜市地球温暖化対策実行計画の推進）として、未使用の部屋の消灯、クールビズ・ウォームビズを推進し、横浜市節電・省エネ対策基本方針に基づき、空調機の室内温度を設定し節電に努める等、施設運営の省力化を進めます。

イ 市内中小企業や障害者施設への優先発注

発注物品の購入や各種契約については、市内中小企業を優先しています。特に、1件100万円以上の案件は、業者選定委員会で審議し、入札による選定を要綱に定め、公平性を高めています。また、グリーン購入法適用等、環境にも考慮した物品購入に努めています。

また、障害者施設への発注についても積極的に行っています。区内の障害者施設へ作業や物品の発注を行い、障害者の社会参加の機会の拡大や工賃向上に取り組みます。

ウ 男女共同参画の推進

女性が活躍できる環境を整備し女性活躍の取組を加速させるため、市社協で定めた「女性の職業生活における活躍の推進に関する行動計画」に基づき、全職員が職業生活において十分に能力を発揮できる雇用環境づくりを進めています。

5 事業

(1) 施設の提供について

ア 利用団体との関係性の構築・支援について

利用団体の情報を把握し、支援するための取組について、具体的に記載してください。

各部屋利用終了時の点検や窓口対応、利用調整会議等の機会を活用して、利用団体の活動内容や課題等の把握に努めます。また、本会が実施する各種事業（移動情報センター、権利擁護事業等）と連携を図りながら、生活に根差した幅広い分野での区域・地区のニーズをつなげた支援と事業展開を図ります。

あわせて、ボランティアセンターへ依頼や相談があった案件を、利用団体へつなげる等、団体の活動内容を踏まえた取組につなげていきます。

イ 施設の利用促進について

施設稼働率の数値目標及びボランティア等の育成支援を踏まえた利用促進の方針について、具体的に記載してください。

多目的研修室及び団体交流室については、年間平均稼働率65%を目指します。平成30年度の稼働率は、多目的研修室及び団体交流室が61%となっており、日中と夜間帯を比較すると、平日の日中を主たる活動時間帯とする利用団体が多いことから、夜間帯は定期的な利用に留まっています。利用申込の時期に合わせ空室状況を本会ホームページへ掲示する等、夜間帯及び土日祝日の利用促進を図っていきます。

また、録音室や点字製作室は、主に技術系ボランティアに活用されており、講座等の

開催を通じて新たな活動者を確保し、各団体活動の活性化を支援するとともに、会議等を通じて利用を呼びかけ新規登録を進めます。

(2) ボランティアに関する事業について

ア ボランティアに関する情報収集、分析及び計画立案について

支援を必要とする人・団体のニーズに関する情報収集、地域のニーズ等の分析及びそれらに基づいて事業の計画立案を行う方針等について、具体的に記載してください。

ボランティアセンターに寄せられる相談を「総合相談」と捉え、相談者の状況に応じて本会で実施している各事業（移動情報センター事業、権利擁護事業等）や関係機関と積極的に連携して対応します。

情報収集にあたっては、窓口や電話による相談だけではなく、職員が積極的に地域へ出向きながら様々な場面・機会を通じて、制度の狭間にある個別ニーズの把握に努めるとともに、区域・地区のニーズをつなげた支援と展開を図ります。

あわせて、利用調整会議や日常点検、本会が実施する助成金配分事業等を通じて、利用団体の活動内容や課題を把握・分析し、事業に反映させていきます。また、利用団体及びボランティアセンター登録団体に留まらない幅広い情報収集を図ります。

特に共通ニーズである「人材の確保」については、退職後のセカンドライフにボランティア活動を提案するセミナーを開催し、各参加者の意向に合わせた多様な活動を紹介することで、地域に結びつける取組を進めています。

加えて、各地域におけるコーディネート機関等との連絡会開催を通じて連携強化を図り、地域課題の解決に向けて取り組めます。

イ ボランティアに関する広報及び情報提供について

ボランティアに関する情報を、ボランティア活動者、利用者及び地域住民等に提供する方法について、具体的に記載してください。

ア 情報誌・掲示板

ニーズ情報を毎月発行し、館内掲示や関係機関への配布を行うとともに、地域情報新聞（新聞の折り込み）の紙面を活用して、ボランティアや福祉に関する情報を広く区民に提供します。

また、拠点内に設置している掲示板や配架用ラックは、利用者の方々へ最新の情報を提供できるよう、都度内容を確認しています。

イ インターネットの活用

本会ホームページにイベントやボランティアの情報を掲載するとともに、本会広報紙や市ボランティアセンターのボランティア情報メール配信により情報発信を行います。

ウ 情報コーナーの設置

拠点内に分野別等の情報コーナーを設け、チラシの配架やポスター等の掲示による情報提供を行います。

エ 本会事業やネットワークを活用した情報発信

各地区社協や民児協など、地域の会議等を通じて各種情報を発信します。また、各地域ケアプラザ主催のボランティア関連講座において、区ボランティアセンターの周知を行い、各地域により多くの情報が行き届くよう努めます。

ウ ボランティアに関する相談・紹介について

ボランティアに関する相談・紹介の方法と、ボランティアコーディネートを推進するための計画について、具体的に記載してください。

ア ボランティア活動希望者及び依頼者への対応

専任のボランティアコーディネーターを配置し、ボランティア相談や調整を行います。ボランティア活動希望者に対しては、ボランティア登録をしていただき、希望内容に合った具体的な活動（場所）を紹介するほか、講座等のボランティア情報を提供します。

ボランティア依頼者（個人・団体・施設）に対しては、ボランティアを必要とする状況を電話や施設訪問等で確認し、ニーズに合ったボランティアを紹介します。

イ ボランティアコーディネートの推進

ボランティアコーディネーターの区内施設・活動団体訪問により、施設・団体の抱える課題やニーズを把握し、ボランティア活動紹介についての情報交換の機会をつくることで、コーディネートの活性化につなげます。

あわせて、外部研修や市域の担当者会議及び各種連絡会等での事例共有や情報交換を通して、スキルアップを図ります。

また、ボランティアに関する依頼や相談の背景には、生活全般に課題を抱えているケースも見受けられることから、地区担当や各事業担当職員及び関係機関との連携により多角的な支援に努めます。

エ ボランティアの育成・支援について

ボランティアの発掘・育成のために実施する事業の計画や、ボランティア団体及び活動者への支援策について、具体的に記載してください。

ア ボランティアの発掘・育成

テーマを絞ったボランティア講座の開催等を通して、新たな活動者の発掘と育成を図ります。あわせて、既存のボランティアグループと連携した講座開催により、新たな担い手の確保を図ります。

また、地域ケアプラザとの共催事業のほか、区主催事業や地域で行われるイベント等の場を活用し、広く周知活動を行います。

加えて、福祉教育機材の貸出や中学生以上を対象としたボランティア体験学習や、西部方面ボランティアセンター「やすらぎの家」との共催による小中学生向けの講座開催により、ボランティア活動の機会を提供するとともに学生の意欲促進に結び付けます。

イ ボランティア団体及び活動者への支援策

本会で実施している港北区ふれあい助成金を通じて、団体の活動を資金面からも支援していきます。助成団体へのヒアリング等の実施により団体の活動における課題把握に努め、事業の企画立案に活かしていきます。

また、ボランティアセンター運営委員会を開催し、多様な立場から広く意見を伺い、活動の活性化に繋げていきます。「港北区ボランティア連絡会」の定例会へ出席し、情報収集や課題把握を行い、解決に向けて共に取り組みます。

個人ボランティアに対しては、紹介後も定期的に連絡を取り、活動状況の把握を行い、必要に応じてアドバイスや活動先との連絡調整を行います。

(3) 他の関連組織とのネットワークについて

ア 関係機関及び地域団体との連携について

関係機関及び地域団体の情報把握及び連携について、考えを記載してください。

本会で実施しているテーマ別分科会（ボランティア・市民活動、障害者サーフェティネット、在宅福祉、地区社協、保育所）や関係機関との各種連絡会を活用し、多様な主体が連携した事業展開を図ります。

また、把握した情報や課題を分析し、解決に向けた取組を進めるとともに、関係機関と地域とのつながりづくりを支援します。

あわせて、社会福祉法人（施設）や企業との連携・協働を一層推進し、地域における公益的な取組を進めるとともに、連携の輪を広げ日常生活圏域（地域ケアプラザ圏域）を重視したアプローチに取り組みます。

イ 区行政との協働について

地域福祉保健計画、区政運営方針、区の事業等を踏まえたうえで、区行政との連携について、具体的な計画を記載してください。

ア 港北区地域福祉保健計画「ひっとプラン港北」の推進

基本理念である「誰もが安心して健やかに暮らせるまち港北」の実現を念頭に、共同事務局、サポートスタッフ（地区別計画支援チーム）の一員として、区役所や地域ケアプラザとの連携により地域支援の体制づくりを進めます。

福祉保健活動拠点の運営においては、場の提供を通じた関係性の構築や活動支援、ボランティア育成・支援の機能を果たすうえで、区全体が目指す方向性を十分に認識したうえで求められる役割を果たしていきます。

イ 経常事業での連携

福祉保健活動拠点運営に留まらず、本会は日頃より区役所との連携を密にし、各種事業の実施に努めています。生活支援課との連携による、フードドライブを活用した生活困窮者への食支援をはじめ、移動情報センターやボランティアセンター、権利擁護事業等の個別支援業務においては、当事者が抱える困りごとが重層的に絡み合っていることが多く、その課題解決には多くの福祉関係者の協力が不可欠となります。

今後も区役所各課と情報共有を図るとともに、寄り添い型学習支援や子育て応援イベント等の区実施事業への参加協力を通して連携強化に努めます。

6 収支計画及び指定管理料

(1) 指定管理料の額及び施設の課題等に応じた費用配分について

収支計画、利用者サービスのための経費に対する考え方について、施設の特徴を踏まえて記載してください。

指定管理料が拠点運営の財源であることを十分に意識し、全職員が責任をもって施設運営に取り組みます。予算の執行にあたっては、利用者サービスの向上を第一とし、更なる利用満足度の向上に資することを念頭に置いた執行に努めるとともに、自主財源を活用した備品等の整備を積極的に進めます。

ア 施設整備に関わる経費（ハード面）

施設・設備の維持管理に関わる費用を適切に執行するとともに、拠点開設から約26年が経過し、設備等の経年劣化が進行しているため、拠点運営に支障が出ない範囲で必要な点検、早期の修繕、計画的な備品整備を区役所と連携を密にしながらか進めます。

また、会議用テーブル等の一部備品については、開設年度以来使用していることから老朽化が顕著となっており、本会の自主財源等を活用した積極的な更新を行うことで、更なる利用者サービスの向上に努めます。

イ 運営を支える人材に関わる経費（ソフト面）

適正な職員配置を行うことで、ボランティア相談も含めた総合相談機能を高め、区民や当事者のニーズに即した様々な事業、各種講座の開催、福祉情報の収集と提供等を行います。あわせて、利用する側の視点に立った運営に資するため、外部研修への派遣も含めた職員研修の更なる充実を図り、職員一人ひとりの資質向上に努めます。

(2) 運営費の効率性について

運営費等について低額に抑える工夫を記載してください。

ア 人件費

運営に必要な職員配置分を指定管理料にて執行します。職員配置においては、求められる役割分担に応じた非常勤職員雇用を行うことで、人件費の抑制を図ります。

イ 事務費

消耗品等は品質を十分に担保しながら、可能な限り低廉な商品を選定することで経費

の節減に努めるとともに、さらに経費節減が見込める場合には市社協一括での入札を行う等、運営費の効率化を図ります。

あわせて資料のペーパーレス化を進め、用紙を使う場合は両面印刷や裏紙の活用を徹底する等紙の使用量自体の抑制に努めます。

ウ その他

不要な照明の消灯や空調機器の温度管理の適正化等により、環境配慮活動にも寄与しながら、経費の節減に努めます。これらの取組に加えて、経費節減を業務の効率化、省力化の一環として捉え、職員会議等で積極的にアイデアを出しあい、経費節減の取組を随時実施していきます。

7 前期の指定管理業務の実績について（現在の指定管理者のみ記載してください。）

前期の指定管理期間における福祉保健活動拠点事業の実績を記載してください。

ア 貸出備品及び施設利用等

・既存のポスタープリンター（感熱紙使用）に加えて、新たにポスタープリンター（普通紙使用）を1台整備しました。

・経年劣化により部品破損などの不具合が生じていた会議用テーブルについて、一部入れ替えを行いました。

・ビル共有部分に設置していたチラシ配架用ラックを移動し、拠点室内に集約しました。なお、集約に伴い不用となったラックについては、区内地域ケアプラザへ譲渡し再利用に努めました。

・度々不具合が生じ、利用団体への貸出に支障を来していたリソグラフ2台を入れ替えました。

・共同募金備品整備費等を活用し、紙折り機及び丁合機を入れ替えました。

・利用団体からの要望を受け、初回受付前の空き状況を公開する等、利便性向上を図りました。

イ ボランティアセンター業務

・ボランティアコーディネーターを非常勤職員として雇用し、移動情報センターや権利擁護事業等との業務連携を図りました。

・コーディネーターの職員化に伴い、ボランティアセンターを本会事務室内へ移転し、日常的に他業務との情報共有を行う等、体制強化を図りました。

・移動情報センターや権利擁護事業をはじめとする本会実施事業との業務連携により、コーディネートが難しかった案件も調整できるようになりました。

・既存のボランティアグループと講座を共同開催することで、ボランティアグループの活動状況や課題を把握するとともに、新たな活動者の確保に結びつけました。

※各項目の枠の大きさは適宜変更してかまいません。別添資料としても結構です。

指定管理料提案書及び収支予算書
(横浜市港北区福祉保健活動拠点)

1 指定管理料提案書

(単位：円)

| 項目 | 積算根拠 | 金額 |
|--------------------------------|--|------------|
| 賃金水準スライド 対象人件費 (非課税) ※ 1 | 常勤職員 (賃金、賞与、退職積立金、法定福利費) 非常勤職員 (賃金、法定福利費) | 8,630,000 |
| 賃金水準スライド 対象外人件費 (非課税) | 常勤職員 (通勤手当) 非常勤職員 | 216,000 |
| 事業費 (税込) | 諸謝金 210,000 消耗品費 10,000 通信運搬費 (郵券代) 13,000 損害保険料 7,000 手数料 (会場利用料) 95,000 広報費 (看板掲出、広報紙、ホームページ) 425,000 租税公課 120,000 | 880,000 |
| 事務費 (税込) | 消耗品費 360,000 通信運搬費 (郵券、電話、インターネット) 80,000 器具什器費 (備品購入) 500,000 損害保険料 (施設賠償責任保険) 4,000 賃借料 (印刷機・コピー機、AED) 1,235,000 保守料 (パフォーマンスチャージ) 40,000 広報費 (看板掲出) 220,000 租税公課 590,000 利用料等負担金収入 △240,000 | 2,789,000 |
| 管理費 (税込) ※ 2 | 光熱水費 水道料金 120,000 電気料金 1,800,000 機械警備委託 360,000 清掃委託 1,020,000 機密文書・産廃処理 120,000 | 3,420,000 |
| 指定額 | 小破修繕費 | 300,000 |
| 合 計 | | 16,235,000 |

※ 1 : (正規雇用職員等基礎単価×配置予定人数) + (臨時雇用職員等基礎単価×配置予定人数)

※ 2 : 小破修繕費は除く。

2 収支予算書

(単位：円)

| 項目 | 3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | 7年度 |
|--------------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 内訳 横浜市支払 想定額 | 16,235,000 | 16,235,000 | 16,455,000 | 16,235,000 | 16,235,000 |
| その他収入 | 240,000 | 240,000 | 240,000 | 240,000 | 240,000 |

| | | | | | | |
|----------|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 収入合計 (A) | | 16,475,000 | 16,475,000 | 16,695,000 | 16,475,000 | 16,475,000 |
| 内 訳 | 人件費 | 8,846,000 | 8,846,000 | 8,846,000 | 8,846,000 | 8,846,000 |
| | 事業費 | 760,000 | 760,000 | 760,000 | 760,000 | 760,000 |
| | 事務費 | 2,439,000 | 2,439,000 | 2,439,000 | 2,439,000 | 2,439,000 |
| | 管理費 | 3,720,000 | 3,720,000 | 3,720,000 | 3,720,000 | 3,720,000 |
| | 消費税等 | 710,000 | 710,000 | 710,000 | 710,000 | 710,000 |
| | その他 | 0 | 0 | 220,000 | 0 | 0 |
| 支出合計 (B) | | 16,475,000 | 16,475,000 | 16,695,000 | 16,475,000 | 16,475,000 |
| 収支 (A-B) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

福祉活動及び保健活動の実績報告書

(令和 2 年 2 月 25 日現在)

団体としての、福祉活動及び保健活動の実績（過去 1 年間、区内に限らず他区・他都市での活動実績を含む）を、具体的に記載してください。

※実績報告書の内容が記載されているものがある場合は、別添として提出することもできます。

別添の「平成 30 年度事業報告及び決算報告書」をご参照ください。

平成30年度
事業報告及び収支決算書

社会福祉
法人

横浜市港北区社会福祉協議会

平成 30 年度 横浜市港北区社会福祉協議会 事業報告

■基本方針

平成29年度に全面施行された改正社会福祉法を受け、組織のガバナンスの強化や事業運営の透明性の確保に努めました。また、社会福祉法人・施設の地域貢献事業への取組支援と同時に、地域の福祉課題・生活課題に即した地域支援への取組みを進めました。

「地域における子どもの居場所づくりサポートモデル事業」はモデル指定2年目の最終年度でしたが、居場所に関わる啓発や相談、地域活動の立ち上げ支援などを通してネットワークの強化に努めてきました。活動から見えてきた新たな課題を今後につなげていきます。

生活支援体制整備事業は3年目を迎え、2層の生活支援コーディネーター(地域ケアプラザ)と1層の生活支援コーディネーター(区社協)とともに取り組んできたアセスメント結果に基づき地区支援を進めてきました。

また、第3期港北区地域福祉保健計画「ひっとプラン港北」は3年目を迎え、中間年としてこれまでの実践の振り返りと今後の取組を検討するため区民向け調査を行いました。具体的な地域課題の解決に向けて区計画の推進と地区計画推進への支援を今後も進めていきます。

本会がこれまで取り組んできた地域支援と個別支援の融合を目指した身近事業の取り組みや多くのみなさまからなる会員組織としてのネットワークを活かし、地域ケアプラザや行政と連携し、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支えあいながら自分らしく活躍できる「地域共生社会」を目指し、「誰もが安心して健やかに暮らせるまち港北」の実現に向けて取組みました。

■平成 30 年度 重点事業

1 社会福祉法改正への対応

- ・社会福祉法の改正後2年目を迎え、法人運営のガバナンス強化への対応と、公共性の高い組織として事業運営の透明性に努めました。
- ・社会福祉法人・施設との連携・協働を一層推進し、地域とのつなぎ・連携、生活支援体制整備事業への展開を意識し、地域における公益的な取組や地域課題の解決に向けて取組みました。

2 地域における子どもの居場所づくりサポートモデル事業の推進

- ・前年度に取り組んだ地域活動の把握と地域での活動の立ち上げ支援をもとに、活動への支援とネットワークをさらに強化することを意識し取り組みました。
- ・食の支援の取組をさらに強化し、食材確保のシステム化(フードドライブの展開、フードバンクとの連携 等)に取り組めました。

3 生活支援体制整備事業の推進(地域ケアプラザとの一体的地域支援)

- ・生活支援体制整備事業においては、2層コーディネーターとともに取り組んできたアセスメント結果に基づき、担い手育成や居場所づくり検討など具体的な地区支援を意識し取り組みました。
- ・ケアカンファレンス、地域ケア会議への参画により、区社協の地域支援における役割・機能を具体化してきました。そのために、職員会議等を活用して各地区のケアカンファレンス等の情報共有と区社協のかかわり方などの検討を行い、職員の地域支援のスキルの向上に努めました。

4 地区社協活動・小地域活動の支援

- ・一人ひとりの困りごとを解決できる地域づくりをめざした地区社協活動の一層の推進のため『地区社協の手引き』の周知をしました。地区社協の中間支援組織の役割の整理と活動の推進を図り、地区活動・小地域活動の支援を強化してきました。
- ・身近な住民同士の支えあいの活動をさらに進展させるための地域の拠点確保のため、新たに設けた港北区みんなの助成金「居場所区分」が有効活用できるよう周知並びに支援を行いました。

5 ボランティアセンター機能の充実

- ・ボランティアセンターが、区内のボランティアコーディネート機能の中核としての役割が果たせるよう、支えあい型ボランティア活動の連絡会や地域ケアプラザとの連携に努めました。
- ・災害発生時に災害ボランティアセンターが速やかに機能できるよう、体制整備や関係団体との連携に努めました。また、横浜市災害ボランティア支援センターや近隣区の災害ボランティアセンターとの連携し取り組みました。

6 第3期港北区地域福祉保健計画の推進

- ・第3期計画の3年目を迎え、区域計画における社協の取組(地区活動・活動団体支援、担い手育成、ネットワーク促進等)を進めました。また、サポートスタッフとして、地域の掲げる目標に近づけるよう地区計画の推進支援をしました。
- ・中間年として、これまでの取組みの振り返りと次期計画策定の検討資料とするため「区民アンケート」を実施しました。これを受け評価方法と次期計画策定準備に向けた検討を行います。

上記の重点事業を具体的に進めるために「Ⅰ福祉啓発」「Ⅱ個人の自立支援」「Ⅲ地域の福祉力の向上」「Ⅳボランティア活動の推進」「Ⅴ信頼される組織運営」の5本柱で本会事業を進めました。

I 福祉啓発

1 IT を活用した情報の発信

<中期計画 5-1><ひっと とどく-1>

本会の事業や役割、活動について広く周知を図るとともに、必要な情報が必要な人へ届くよう、ホームページやメールマガジン等のITツールを活用し情報を発信しました。

(1) ホームページ

内容更新を随時行い、地区社協

の活動、ボランティア募集情報や講座等の情報を発信しました。さらに、活動や事業等に関するお問い合わせの電子メール受付を行いました。

(2) アクセシビリティ

高齢者や障害者なども含めたあらゆる人が、利用しやすいように見直しを行っています。

【本会ホームページアドレス】 <http://www.kouhoku-shakyo.jp/>

【お問合せ電子メールアドレス】 info@kouhoku-shakyo.jp

・ホームページ アクセス件数 45,679件

2 広報紙「ふくしのまど」「こうほく区社協だより」等の発行

<中期計画 5-1><ひっと とどく-1>

地域の福祉活動・区社協事業・ボランティアセンター情報を定期的に発信していくため、地域新聞の活用、広報紙「ふくしのまど」の発行、本会独自の広報紙「こうほく区社協だより」を発行しました。地域の方にとって、身近な区社協になるよう、わかりやすい内容とし周知しました。

(1) 「ふくしのまど」の発行

発行:5月・7月・10月・2月

発行部数:67,500部/回

※地域新聞の配付エリア外の地区については増刷し、区社協から送付しました。

配布先 : 地域新聞折り込み、福祉保健活動拠点・区内地域ケアプラザ・地区センター・区民活動支援センター等での配架

(2) 「こうほく区社協だより」の発行

発行:11月

発行部数:3,000部

配布先 : 福祉保健活動拠点・区内地域ケアプラザ・地区センター・区民活動支援センター等での配布

3 港北「ほくほくフェスタ」社会福祉大会の開催

<中期計画 5-1><ひっと とどく-1 つながる-1、-2>

福祉活動功労者の表彰並びに港北区と共催の区民フォーラム等を通じて、区内における地域福祉の発展に寄与することを目的として開催しました。開催にあたっては、各種福祉保健活動団体の協力を得て開催しました。

(1)開催日時

平成30年11月2日(金)10:00～16:00

(2)開催場所

港北公会堂および区役所中庭

(3)開催内容

- ①第36回港北区社会福祉大会(福祉活動功労者の顕彰)
- ②区民フォーラム(第3期港北区地域福祉保健計画「ひっとプラン港北」の啓発)
テーマ:「知ってもらえたら心強い“障がい”のこと」
- ③ボランティアの広場(区ボランティア連絡会による模擬店・バザー)
- ④港北区社協各分科会活動パネル展示
- ⑤社会を明るくする運動実施委員会標語コンクール優秀作品展示
※前日1日 16:45～19:30 も公開
- ⑥フードドライブ(実績:9名、40点)

(4)参加者 約480名

4 子育て応援情報サイト、情報地図「ココマップ」による情報提供

<中期計画 5-1><ひっと とどく-1>

NPO 法人びーのびーのと協働し、港北区内の子育て支援に関する情報を一元的に情報マップ(紙版)、ホームページを通じて提供しました。地域住民である編集委員からの情報を掲載し、常に新しい情報が閲覧できるように更新しました。

(1)ブログを通じたタイムリーな情報提供(ホームページ)

(2)子育て応援マップ「ココマップ」改訂版の作成と配布

(3)編集委員会の開催:全12回

【ホームページアドレス】<http://www.kouhoku-shakyo.jp/>

・ホームページ アクセス件数 248,591件

Ⅱ 個人の自立支援

1 港北区社協あんしんセンター事業の実施

<中期計画 2-1、2-3><ひっと とどく-1、2>

高齢者や障害者などの自立生活を支援するため、新規相談者への相談の充実を図ると共に、権利擁護の普及・啓発を行い、利用者に対するきめ細やかなサービス提供を行いました。

社会福祉士分科会や港北区事業所連絡会「ガンバ港北」に参画しました。また、市民後見人の養成と活動支援を図るため、成年後見サポートネット事務局として全体会、分科会を開催し、権利擁護のネットワーク充実を図りました。

成年後見サポートネット参画の行政書士と連携した無料相談会の開催や民生委員の定例会等、あんしんセンター出張説明会等での事業説明を通して制度を周知し、必要な人にサービスが届くよう利用者増に向けて取り組みました。

(1) 利用対象

- ①概ね 65 歳以上の高齢者 ②成年で障害のある方(身体・知的・精神)

(2) サービス内容

- ①総合相談 ②金銭管理・定期訪問 ③預金通帳など財産関係書類の預かり

(3) 関係機関との連携

- ①成年後見サポートネット 全体会・分科会の開催
- ②地域包括支援センター連絡会社会福祉士分科会への参画
- ③港北区事業所連絡会「ガンバ港北」への役員参画
- ④民生委員児童委員への制度周知

(4) 利用者増に向けた取り組み

- ①区役所・地域ケアプラザとともにコスモス成年後見サポートセンター県支部横浜東地区行政書士との巡回無料相談会の開催 (12月1日)
- ②パンフレットや事例集を使用した関係機関への制度の広報・周知

・初回相談件数:51件 ・契約件数:47件 ・新規契約件数:19件

2 要援護者移送サービス事業の実施

<中期計画 5-7><ひっと ひろがる-1、とどく-1>

公共の交通機関の利用や家族等による送迎が困難な高齢者及び障害者に対して移送サービスを行うことにより、日常の外出支援を行いました。また、利用者の状況確認や情報共有・技術向上などを目的に運転ボランティア定例会を開催し支援者の質の向上に努めました。

- ・利用登録者:46名(利用実績:延べ886件)
- ・運転ボランティア会議:年6回

3 障害児・者のための外出相談室「おでかけ GO!」の実施

＜中期計画 5-6＞＜ひっと ひろがる-1、つながる-2、とどく-1＞

障害児・者の移動を支援する情報・相談の拠点として、移動手段の情報など、的確な情報を提供しました。また、相談内容を分析することにより、移動に関する課題を明らかにし、その課題解決に取り組めました。

(1) 相談窓口の強化

- ① 窓口担当者会議(年 12 回)
 - ② 相談機関として事業周知(通年)
 - ③ 支援機関との連携(通年)
- ・相談件数:190 件

(2) 移動支援者の連絡会の実施

- ① 関係機関との情報共有と地域のネットワーク作りに取り組めました。
自立支援協議会への参画、地域福祉保健計画との連動
- ② ヘルパー事業所や介護タクシー事業所等との連絡会を開催しました。(年4回)
 - ア)「介護事業所連絡会」
 - ・6月 21 日 参加者:42 名(事業所 33 社) ・12 月 3 日 参加者:16 名(事業所 10 社)
 - イ)「放課後等デイサービス事業所連絡会」
 - ・10 月 5 日 参加者:34 名(事業所 20 社)、 ・1 月 30 日 参加者:28 名(事業所 20 社)

(3) 地域への啓発

- ① 障害理解や担い手発掘を目的とし研修を実施しました。(年2回)
 - ・講演会「特別支援学校の児童・生徒の暮らしを知ろう(特別支援学校の保護者の講演会)」
(7月 18 日) 参加者:30 名
 - ・講演会「ガイドヘルパー利用者さんに聞いてみよう(当事者の方をゲストスピーカーとした講演会)」(1月 23 日) 参加者:60 名
- ② 地域で活動しているガイドボランティアとの座談会を開催しました。
 - ・ガイドボランティアフォローアップ座談会(10 月 15 日) 参加者:10 名
- ③ ニーズが多い通学・通所送迎に関して地域と協力し、ボランティア育成を進めました。(年3回)
 - ・「ガイドボランティア講座(市域)」(12 月 18 日) 参加者:9 名
 - ・「障がい児お出かけサポート講演会(城郷小机地区)」(1月 19 日) 参加者:32 名
 - ・「障がいのある子のための通学の応援してみませんか(日吉地区)」(2月 19 日) 参加者:13 名

(4) 横浜市ガイドボランティア事業の実施

①障害児・者や難病患者が外出するときに付添うボランティアの登録や活動に応じた奨励金の支払いなどの業務を行いました。

・年間取扱件数:1,429 件

4 障害者余暇支援事業の実施

<中期計画 3-7><ひっと ひろがる-1>

「港北なつとも(港北区学齢障害児支援事業)」にて余暇プログラムを通じて、障害児の生活圏の拡大を図るとともに、障害の有無を超えた仲間作りを実施しました。

「港北なつとも」では、活動資金の助成を行い、実行委員の一員として活動の目的や方針、内容などについて関係機関と協議を行いながら進めました。

・実行委員会:年2回 ・作業部会:年5回 ・参加者:当事者 26 名 ボランティア 42 名

5 生活福祉資金貸付事業の実施

<中期計画 1-5, 5-8><ひっと とどく-2>

低所得世帯、障害者や日常生活上療養又は介護を必要とする高齢者のいる世帯などに対して、資金の貸付と必要な援助を行うことによって、その世帯の生活の安定と経済的自立を支援しました。

必要な世帯に支援が届くように、円滑に事務を進めるとともに、生活困窮者自立支援制度の所管との連携に努めました。

また、相談者の状況に応じて必要な制度の提供や相談支援を実施するため、相談員の研修を実施するとともに区役所やハローワーク等との連携に努めました。

①相談支援 ・相談件数:33 件 (延べ問合せ件数:1,942 件)

②新規貸付件数 ・生活福祉資金:2件 ・教育支援資金:25 件 ・総合支援資金:0件
・不動産担保型生活資金:1件 ・緊急小口貸付資金:5件 ・食支援:55 件

6 各種ネットワークへ参画

地域福祉に関する様々な支援機関、団体のネットワークに参画し協働しながら専門機関としての支援体制を構築していきました。社協の役割としての支援を活かし、個別支援課題から地域支援課題の抽出に努めました。

(1) 各種連絡会、ネットワーク会議

- ① 港北区地域自立支援協議会
- ② 港北区地域作業所連絡会
- ③ こうほく高次脳機能ネットワーク
- ④ 港北区事業所連絡会「ガンバ港北」
- ⑤ 港北成年後見サポートネット
- ⑥ 港北区地域包括支援センター連絡会 社会福祉士分科会
- ⑦ 港北区認知症及び高齢者虐待防止連絡会

Ⅲ 地域の福祉力の向上

1 「ひっとプラン港北」の推進【重点】

＜中期計画 1-4＞＜ひっとプラン＞

「ひっとプラン港北」は「誰もが自分らしく安心して暮らせるまち」を目指し、地域住民と関係団体、行政等が連携して地域の福祉課題の解決に取り組み、助けあいや支えあいのある地域づくりを進めるための計画として、第3期3年目を迎えました。区計画と地区ごとの計画を区役所と区社協が共同事務局として策定し、区役所と連携を図りながら計画の周知・地区同士の交流を図り推進に努めました。

(1) 平成30年度の重点テーマ

「人材の確保」「障害の理解」

(2) 推進体制

①ひっとプラン推進委員会の開催(区域・年2回 6月28日、2月21日)

②ひっとプラン事務局会議開催(毎月2回)

(3) 広報啓発活動

①地区計画ニュースの発行(年1回)

②港北ほくほくフェスタ 区民フォーラムの開催(年1回) ※再掲

(4) 地域づくりのための意識調査および意見交換について

①意見交換会の実施(年1回 11月29日) 参加者:22名

②区民アンケートの実施(インターネット調査含む)

・回収数 1,673件(9月8日～21日まで実施)

(5) 推進のための研修会の実施

①広報戦略について[研修]および情報に関する地区情報交換会(9月27日) 参加者:39名

2 みんなの居場所支援事業の実施【拡充】

＜中期計画＞＜ひっと ひろがる-2、つながる-1、2、3、とどく-2＞

平成18年度より身近な地域の中で誰もが集える交流の場・居場所として「みんなの居場所」づくりの支援を行っています。介護予防や住民の交流の場が居住地から歩いて行ける場所にあることが望まれます。このような背景から、より身近な場所に、多くの人が気軽に参加できる「みんなの居場所」運営支援として、これまでの支援に加え、「港北区みんなの助成金」に新たに居場所区分を創設し立上げ支援を行いました。また、平成28年に遺贈されたマンションを売却し助成財源の確保に努めました。

・問い合わせ・相談件数:3件

3 身近な地域における生活支援体制整備事業の推進【重点】

＜中期計画 1-1, 1-2＞＜ひっと ひろがる-2, とどく-2＞

地域の生活課題について住民と共に解決に向け取組み、超高齢化社会となる2025年に向けて、高齢者がいつまでも住み慣れたまちで元気に暮らせるよう、しくみづくりや支える人・団体の支援に努めました。

横浜市では各区社協に1層生活支援コーディネーター、各地域ケアプラザに2層生活支援コーディネーターを配置したことを受け、区役所と共に区域での課題解決に向けて取組みを進めました。

(1) 区域でのアセスメント・取組

港北区ふれあい助成金・港北区みんなの助成金の配分や地区社協との関わり、また区社協の業務から見た地域の状況等をもとに、区域・地区域での「まち」の分析や課題の抽出、解決に向けた検討を行いました。

また、制度やサービスでは解決しにくい、暮らしの中のちょっとした困りごと(ゴミ出し、付き添い、話し相手など)に対応した活動を行う「家事・生活支援ボランティア」への支援や企業や社会福祉法人など多様な方々との連携を進めるための取組みを進めました。

- ①「たすけあい型生活支援ボランティアグループ情報交換会」の開催(2月28日) 参加者:33名
- ②在宅福祉分科会との連携による「家事・生活支援ボランティアグループ立ち上げマニュアル」作成検討
- ③区内特別養護老人ホーム 施設長連絡会(3月26日) 参加者:7施設

(2) 2層生活支援コーディネーター支援

横浜市の事業進捗状況や他区・地区での取組みや事例、アセスメント結果等を、2層生活支援コーディネーターと情報共有するとともに、各地域ケアプラザ圏域での事業推進を区社協として支援しました。

また2層生活支援コーディネーター連絡会を毎月開催するとともに、新たな地域活動の担い手確保等、課題に応じた取組みを進めました。

- ①よこはまシニアボランティアポイント研修(11月30日) 参加者:70名
- ②おすすめ地域活動ガイドの作成

(3) 介護予防・生活支援サービス補助事業(サービスB)の支援

横浜市の補助事業(配食・通所・見守り・訪問)について広く周知すると共に、地域団体の申請に向けた活動を区役所・地域ケアプラザと協力しながら支援しました。また、活動団体同士のネットワークづくりのため情報交換会を実施しました。本事業の活性化を目指し、介護保険事業者等に向けたPRを行いました。

- ①サービスB活動団体情報交換会(10月5日) 参加者:29名

4 地域における子どもの居場所づくりサポートモデル事業【重点】

<中期計画 1-1><ひっと ひろがる-3、つながる-1、とどく-1>

地域の中で子どもたちを見守ることにより孤立を防ぎ、安心して暮らすことができる環境づくりを進めるため、地域が主体となった食の支援、学習支援等の子どもの居場所の立ち上げおよび継続の支援を行いました。そして、子どもの居場所づくりを通して、地域住民同士の交流や支え合い活動の支援を行いました。

また、活動の中で把握した課題を共有し、解決するためのネットワークづくりに努めました。

(1) 立ち上げ支援

- ① 地域からの相談受付
- ② 地区の検討会への参加

・相談件数:68件 新規居場所立ち上げ件数:4件

(2) 広報啓発

- ① 区内活動状況調査
- ② 広報紙を活用した広報

(3) ネットワークの構築

- ① 食の支援に関心のある方の連絡会開催
- ② 支援者向けの研修会の実施
講演会『なぜ今「子どもの居場所」が必要なのか』(2月13日) 参加者:64名
講師:幸重 忠孝氏 (こどもソーシャルワークセンター代表)
- ③ 区内事例の紹介
- ④ 活動継続の支援(食材確保のシステム化、フードバンクかながわとの連携など)

5 地域ケアプラザとの一体的な地域支援【重点】

<中期計画 1-1><ひっと-1>

少子高齢化が進行する中、経済や雇用情勢、地域・家庭形態の変化などを背景に、8050問題やダブルケア、いわゆるゴミ屋敷、子どもの貧困など、暮らしの中にある問題は複雑多様化しており、このような新たな福祉課題はあらゆる世代にわたっています。その中で、新たな仕組みづくりの一つとして横浜市社協では平成25年に「身近な地域のつながり・支えあい活動推進事業」をスタートさせました。港北区においても、身近な地域でのつながりや支え合いをより推進するために、一人ひとりの生活状況から、その課題の解決にむけて、住民による小地域福祉活動の更なる推進に地域ケアプラザとの連携を強化し、取り組みました。

(城郷地区での取組) ※進行役として参加

「生活が豊かになるような地域とのつながり～個別支援と地域支援の融合～」(8月3日)

「包括レベル地域ケア会議」(2月18日)

(1) 推進体制

① 地域ケアカンファレンスへの参加

② 地域ケア会議への参加

日常生活圏域で地域支援・個別支援を行う地域ケアプラザとともに、区域のネットワークや強みを活かして、個々人の生活課題の軽減・解消のための方針や具体的活動について検討しました。

(2) コミュニティソーシャルワーカーとしての資質向上

① 業務ミーティングによる検証・対応

身近・小地域支援における地区別・業務別の課題について、検証と対応を積み上げる機会を定期的に設けました。

(3) 地域ケアプラザとの連携・研修

① 地域活動交流コーディネーター連絡会の定例開催(月1回)

② 日常的な活動支援・協力

③ 人材育成のための研修会(年3回)

- ・「広報戦略について[研修]および情報に関する地区情報交換会」(9月27日) 参加者:39名
- ・「広報スキルアップチラシ編～効果ある伝え方&考え方」(12月25日) 参加者:14名
- ・「避難所運営の視点で学ぶ個別支援と地域支援」(3月18日) 参加者:12名

6 港北区ふれあい助成金・港北区みんなの助成金による活動支援【拡充】

<中期計画 1-2><ひっと ひろがる-2>

「港北区ふれあい助成金」「港北区みんなの助成金」を通じ、区内のボランティアグループ・当事者活動・介護予防活動等の支援を行いました。

- ・助成規模 20,828,000円
- ・助成団体 253団体(新規4件)

7 地区社会福祉協議会への支援【重点】

<中期計画 1-3、5-2><ひっと つながる-1>

地域住民に一番身近な地区社協事業の標準化と強化、住民の方々に信頼される地区社協運営の適正化を図り、地区社協の運営を安定的・継続的に行うとともに、活動の充実をはかる支援を行

いました。また中間支援機能を活かした「地域住民とともに取組む福祉のまちづくり」に向けた支援を行いました。特に、地区社協や地域団体が行う配食、サロン、たすけあい型ボランティア活動などの推進に向けた支援を強化してきました。

(1) 地区社協分科会の開催

① 会長・事務局長合同会議(年5回)

区社協から地区社協へ組織的に依頼する機会、地区社協支援の方向性の確認の機会としました。「ひっとプラン港北」地区別計画推進の進捗状況の報告なども行いました。

② 事務局長会議(年4回)

地区社協が抱える様々な課題を解決していくための具体策と、それを実践するための検討をする機会としました。また、賛助会費運動プロジェクトを開催し、広報や事務手続きの検討整備を行いました。

(2) 地区社協研修の実施

① 地区社協役員 新任研修・地区社協てびき研修

地区社協の新役員が揃う6月頃に、募金や会費の意義目的や流れ、分科会、予算・決算との関連などについての研修を行いました。

② 地区役員 フォローアップ出張研修

当該地区の課題や求めに応じた内容の研修を地域に出向いて実施しました。

(3) 地区社協役員と区社協事務局との懇談会

地区の次年度の方針をヒアリングし、その支援と区社協事業への反映を目的に1～2月にかけて実施しました。

8 福祉保健活動拠点の運営

<中期計画><ひっと ひろがる-2>

場の提供を通じて、団体、個人の地域活動の支援を行うとともに、地域ニーズの把握に努め、住民や関係機関と共に課題解決に向けて取り組みました。また、区民利用施設の指定管理者として、公平・公正なサービスの提供と利用者ニーズに即した運営、施設間のネットワーク強化・連携に努めました。

(1) 利用調整会議の開催(防災訓練を同時開催)(3月15日)

(2) 施設間連携会議(1月30日)

(3) 第三者評価実施

・登録団体:206団体 ・利用件数:2,865件 ・稼働率:50.3%

IV ボランティア活動の推進

1 区社協ボランティアセンター事業の強化【重点】

<中期計画 3-7><ひっと ひろがる-1 >

ボランティアセンター事業を通じ、地域で活動する人材の発掘、活動の場や横のつながりづくり、また福祉に対する意識啓発を行い、区域での福祉力向上に努めました。

また、依頼内容やボランティアの登録状況について分析を行い、より効果的な事業推進に役立てていくとともに、区社協内の各部門と協力し、幅広い視点で柔軟なボランティアセンターの運営をしました。

(1) ボランティアコーディネート力の向上

相談内容や依頼者・ボランティアの分析を通して、地域の機関とのつながりづくりを強化してきました。ボランティア連絡会とのこれまでのつながりを活かし、定例会で相談内容の共有を行い、連携しながら対応しました。

- ① コーディネーター定例会(事例検討)・勉強会開催(年 10 回)
- ② 港北区ボランティアセンターの情報発信
 - ・ニーズ情報発信(毎月更新)
 - ・情報ラックの整理
- ③ 港北区ボランティア連絡会定例会への参加

(2) コーディネート機関・ボランティア団体との連携の強化

各地域におけるコーディネート機関やボランティア団体等との連絡会を開催し、連携を促進しました。連絡会から得た地域課題を、複数の機関と協力し解決に取り組みました。

- ① 連絡会の開催(2月 28 日) ※生活支援体制整備事業と共同開催
- ② 各団体、コーディネーター向け研修の実施

(3) 西部方面ボランティアセンター「やすらぎの家」の運営

区ボランティアセンターのブランチとして、地域性を活かしたボランティアセンターの運営を進めました。

- ① コーディネーター勉強会の実施(2月 18 日)
- ② ボランティア体験学習の実施
 - ・小学生向け福祉講座(7月 24・26 日) 参加者:32 名
 - ・中学生向けボランティア体験(7月下旬～8月下旬) 参加者:26 名
- ③ ミニサロンの開催(毎週(水))
- ④ 定例会(月1回)

(4) ボランティアセンター運営委員会の開催

多様な立場の委員から広く意見を伺い、ボランティア活動の活性化と港北区ボランティアセンターの事業推進に努めました。(年2回)

- ①上半期事業報告、善意銀行報告(9月11日)
- ②下半期事業報告、善意銀行報告、次年度事業計画(3月12日)
- ※ボランティア登録者の拡充、事業の企画・立案などについて協議

(5) 目的、対象、ニーズに応じた入門・育成講座の企画・実施

地域の活動者の発掘を目指し、具体性のあるテーマ別講座や、他施設と連携した講座を実施しました。

- ①傾聴講座(9月1日、9月8日) 参加者:延べ113名
福祉に関する活動を行っていく上では欠かせない傾聴・コミュニケーション技術の習得を目的として開催しました。
- ②精神保健ボランティア講座(2月2日、2月9日、2月16日) 参加者:延べ75名
精神保健分野で活動するボランティアの育成講座を開催しました。
- ③音声訳ボランティア初級者講座
拠点の機能を活かし、視覚障害者の支援を行う活動者を増やしていくため、活動団体と協力しボランティア育成講座を実施しました。
(1月15日、1月22日、1月29日、2月5日、2月12日、2月26日、3月12日、3月19日、3月26日 事前説明会:12月18日) 参加者:延べ251名

2 ボランティアセンターの広報・情報機能強化

<中期計画 3-7><ひっと ひろがる-1 >

ボランティアセンター情報・ボランティア募集情報をはじめ区内福祉保健関係施設・団体の情報提供することで、ボランティアセンター機能を住民に周知し、地域福祉活動への参加を促進しました。

(1) ボランティア情報発信

- ①「ふくしのまど」発行 ※再掲
ボランティア情報と配信メール情報を掲載しました。67,500部×年4回
- ②メールマガジン発行
横浜市ボランティアセンターのメール配信サービスを活用した、電子メールによるボランティア募集情報の発信(年12回)
- ③ボランティアニーズ情報の発行
ボランティア依頼情報をまとめた「ボランティアニーズ情報」を毎月発行しました。
 - ・ボランティアセンター・福祉保健活動拠点内に掲示・配架
 - ・地域の会議等で配布
 - ・区社協のホームページへの掲載

(2) 登録者向けボランティア募集情報の発信

登録者情報の更新を行うとともに、ボランティア募集情報を送付し活動を促進しました。

(3) 区民活動支援センターと連携した情報発信

区民活動支援センターと連携し、日頃の情報共有につとめるとともに、区役所の掲示板でボランティア募集情報の提供をしました。

3 港北区災害ボランティア連絡会の運営

<中期計画 5-11 ><ひっと とどく-3 >

港北区災害ボランティア連絡会の事務局として、災害ボランティアコーディネーターの育成、災害ボランティア活動の普及・啓発に努めました。

地域防災拠点における訓練プログラムへの協力・参加を通して、拠点との連絡・連携の体制づくりに努めました。

関係機関である区役所や横浜市災害ボランティア支援センター、近隣区の災害ボランティアセンターとの連携を強化し、災害時に対応できる体制づくりに努めました。

(1) 災害ボランティア連絡会定例会(8月以外月 1 回)

(2) 災害ボランティアシミュレーション実施(12月8日) 参加者:60名

※災害ボランティアセンター立ち上げ訓練を師岡地区の協力を得て実施

テーマ:「災害時に障害のある人はどんなことに困るの?」

(3) 災害ボランティアセミナー(2月17日) 参加者:36名

テーマ:「災害時の基礎力を作る:パッククッキング、コンロ検証」

(4) 災害ボランティア連絡会ニュース(毎月発行)

(5) 青葉区、都筑区、緑区、港北区の4区でブロック会議の開催(年2回)

(6) 地域防災拠点等との訓練(港北小学校)

(7) 区役所や横浜市災害ボランティア支援センター、近隣区の災害ボランティアセンターと連携強化

4 福祉教育の推進

<中期計画 3-1、3-2><ひっと ひろがる-2、3>

福祉教育を通じて福祉意識の醸成など、次世代育成に努めました。

(1) 福祉教育相談調整機能の充実

福祉意識の醸成のため、福祉の学習に関する相談対応や協力者紹介等を行いました。依頼者のニーズに幅広く応えるとともに、区社協の福祉教育の取組みを周知しました。

・対応件数 15件

(2)福祉教育機材の貸出

必要に応じて体験学習ができるよう、車いすや高齢者疑似体験、アイマスク等の機材の貸出を行いました。

・機材貸出件数 40 件

(3)ボランティア体験講座「ボラリーグ☆こうほく」の実施

福祉教育と次世代の活動者育成を目的に、区内関係機関と協力しボランティア体験講座を実施しました。

①地域子育て支援拠点「どろっぷ」との協働事業

協力:子育てサロン、保育所、地域ケアプラザ等

実施期間:7月25日～8月16日

参加者:39名(中学生23名 高校生15名 専門学生1名)

(4)「先生のための福祉講座」(市域)の実施(市社協主催、18区社協・市教育委員会共催)

教員向けに「学校と地域が一体となって子どもを育てる福祉教育～社会に開かれた教育課程の実現～」をテーマに、福祉とはなにかを始め、地域福祉や当事者理解など今後の学校教育で活かせる視点、手法を学ぶ講座を開催しました。

・8月23日 参加教員23名(区内教員3名)

(5)企業とのネットワークづくり

地域貢献活動を行う企業とのネットワークづくりに努めました。地域と企業のつながりを作り、社会貢献に関する情報提供や提案を通して地域活動の活性化を図りました。

・アネスト岩田株式会社(新吉田) バッテリー式車いす空気入れ(コンプレッサ)寄贈

地域貢献策についての相談・調整を行い市社協高齢福祉部会会員施設(特別養護老人ホーム)のうち、希望する69施設に寄贈されました。

(6)福祉活動の啓発

港北区老人クラブ連合会と共催し、地域とのつながりの重要性と次世代に向けた介護予防の重要性について啓発しました。

・講演会「このまちで 自分らしく生きるために」(2月27日) 参加者:450名

講師:八森 淳氏 (つながるクリニック院長)

5 ボランティア・市民活動分科会の開催

<ひっと ひろがる-2、つながる-2 >

分科会会員が主体となり、会員向けに活動上参考となる講座を実施しました。生活支援体制整備事業・施設間連携事業などへ分科会会員の意見を反映させ、区全体のボランティア育成に参画できるようにしました。また、分科会活動PRのための新聞を発行しました。

- ・「チラシの作り方」(11月17日) 参加者:16名
- ・「高ちゃんのお役立ちボラ実技講座」(2月23日) 参加者:32名

6 善意銀行の運営

<中期計画 ><ひっと ひろがる-1、つながる-1 >

福祉活動への関わり方のひとつである「寄付」について周知していくとともに、仕組についてわかりやすい周知とPRに努めました。また、寄付文化の醸成として「寄付」を通して気軽に福祉にかかわることが出来るということを啓発しました。いただいた寄付は、区内の福祉活動・市民活動を支援する貴重な財源として有効に活用へつなげています。

- ・預託金件数:43件
- ・預託品件数:3件

V 信頼される組織運営

1 信頼性の高い組織運営【重点】

理事会・評議員会・部会・委員会を開催しました。

社会福祉法に基づき、経営組織のガバナンスを強化するとともに、地域福祉の推進を目的とする非営利団体としての認識を深め、地域に根ざした活動を推進し、また会員相互の連携・協働により公益的な取組みを推進しました。

- ・理事会(年4回 6月13日、10月3日、1月17日、3月13日)
- ・評議員会(年3回 6月28日、10月25日、3月27日)
- ・監事会(年1回 5月28日)
- ・評議員選任・解任委員会(年2回 6月13日、1月17日)
- ・部会 専門部会・地域部会・当事者部会・学識部会
- ・委員会 ボランティアセンター運営委員会 ※Ⅳ-1掲載
「港北区ふれあい助成金・港北区みんなの助成金」審査会 ※Ⅲ-6掲載
「ひっとプラン港北」推進委員会 ※Ⅲ-1掲載
年末たすけあい配分委員会
業者選定委員会

2 組織体制の整備強化【強化】

<中期計画 4-1、4-2><ひっと ひろがる-2 >

(1) 会員組織の拡充

会員組織として、会員メリットを打ち出し、正会員の拡充により本会の組織基盤の強化を図りました。正会員の拡充のため、様々な媒体を活用し当会の事業内容や情報を発信しました。

- ・新規会員:7件

(2) 会員セミナーの開催

社会情勢等に応じた福祉保健・地域活動に関するテーマで講義・研修を行うことにより、活動への参考とするとともに参加者のネットワークの構築に努めました。

- ①広報戦略について[研修]および情報に関する地区情報交換会(9月27日) 参加者:39名
- ②組織で取組むリスクマネジメント研修(2月6日) 参加者:5名
※福祉保健研修交流センターウィリング横浜との共催
- ③「障がいのこと 共に知ろう 考えよう」～いつ起こるかわからない災害に備えて～(2月18日)
参加者:49名 ※障がい者セーフティネット分科会企画

(3) 会員向け情報発信

正会員が定期的に情報を得られるように、各種事業・案内等を発信しました。

(4) 分科会活動の活性化を図り、各分科会の取組状況を共有することにより、分科会同士のつながりの強化に努めました。

- | | |
|------------------|---------|
| ① 連合自治会町内会分科会 | |
| ② 民生委員児童委員分科会 | |
| ③ 地区社会福祉協議会分科会 | |
| ④ ボランティア・市民活動分科会 | ※V-3 掲載 |
| ⑤ 在宅福祉分科会 | ※V-4 掲載 |
| ⑥ 障害者セーフティネット分科会 | ※V-5 掲載 |
| ⑦ 保育所分科会 | ※V-6 掲載 |

3 ボランティア・市民活動分科会の開催

<ひっと つながる-2>

生涯学習や生活支援など幅広い分野での市民活動、ボランティア活動を行う団体が集まる特色を生かし、分科会会員が主体となって講座等を行うことで、より活動ニーズに対応した内容とするともに活動の充実を図りました。

会員向けにボランティア活動上参考となる講座(ちらしの作り方、プログラム活性化など)を実施しました。生活支援体制整備事業・施設間連携事業などへ分科会会員の意見を反映させ、区全体のボランティア育成に努めました。また、分科会活動を周知するために新聞を発行し、会員増加にむけて取組みました。

- ・人を集める広報力アップ講座(11月17日) 参加者:16名
- ・高ちゃんのお役立ちボランティア講座(2月23日) 参加者: 32名

4 在宅福祉分科会の開催

<中期計画 4-1><ひっと ひろがる-2 >

年齢や障害の有無を問わず、支援を必要としている人が在宅で安心して暮らしていくために、地域のボランティア団体や福祉施設が連携して、ネットワークづくりを進めています。

生活支援体制整備事業部門とも協力しながら、フォーマルサービス・インフォーマルサービスの連携をふまえ、地域での支えあいの仕組みづくりについて検討をしました。とくに、制度やサービスでは解決しにくい暮らしのちょっとした困りごとを支える「家事・生活支援ボランティアグループ」の重要性に着目し、立ち上げマニュアルの作成に向けた協議を開始しました。

5 障害者セーフティネット分科会の開催

<中期計画 3-5><ひっと ひろがる-1 >

障害者セーフティネット分科会では、障害の有無に関わらず支援を必要としている人が、地域で安心して暮らすためのネットワークを作ることを目的に「障害理解の促進」と「障害当事者と地域とのつながり」を柱として事業を進めました。

具体的な活動として、勉強会や交流会等を企画・実施し、自らの知識を高めるとともに、相互の交流を行い、円滑に連携できるネットワークの形成に努めました。そして、区内の住民に向け障害の理解を促進するため、障害福祉に関する講演会を企画し、障害当事者の希望や正しい知識を伝えてきました。 ※V-5 掲載

加えて、地域防災拠点運営訓練に参加し、当事者の希望を拠点へ伝えることで、支援を必要としている人が安心して暮らせる地域づくりに寄与してきました。併せて、黄色と緑のバンダナおよびコミュニケーションボードの普及活動を行うことで、障害への理解を促進しました。

また、分科会の人形劇啓発グループ「こことも」への講演依頼が増加し、障害理解のための活動の必要性が高まってきました。分科会会員の協力を得ながら、講演の質を高めていくことで、分科会の目的を達成できるように努めました。

・地域防災拠点訓練への参加:8件

(大曾根小、北綱島小、港北小、篠原小、篠原西小、高田中、綱島東小、日吉南小)

・講演会「障がいのこと 共に知ろう 考えよう」～いつ起こるかわからない災害に備えて～

(2月18日) 参加者:49名

6 保育所分科会の開催

<中期計画 4-1><ひっと ひろがる-2 >

本会分科会だからこそできる、公立・私立の枠を超えたネットワークを活かして、区域における子育てをめぐるさまざまな課題の共有・解決の場としました。また、地域組織や団体と連携して子育てを考える機会を作りました。

(1)研修会

①テーマ「豊かな人間関係を築くコミュニケーション」(7月13日) 参加者:31名

②テーマ「コーチングコミュニケーション」(1月11日) 参加者:35名

(2)定例会(年2回)

①情報交換「新年度に入って各園の取組」(5月11日)

②次年度分科会事業計画について(3月8日)

(3) 小規模保育園との交流会(9月14日) 参加者:20名

- ・内容:「子育て施設の災害時における地域との連携のために
～“まち保育”の観点から取り組んでみよう！」

(4) 保育所分科会・港北区内子育て支援団体 合同交流会(11月9日) 参加者:26名

- ・内容:①デイリータッチケア講座
②交流会

(5) わくわく子育て広場

- ・実行委員会:全7回

(4月16日、5月21日、6月18日、7月17日、8月27日、9月7日、10月19日)

- ・開催:9月8日 港北公会堂
- ・内容:あそび、食育、舞台、PR(パネル展示等)

7 苦情解決システムの充実

利用者が意見・要望を言いやすい環境をつくるとともに、苦情を利用者からの貴重なニーズとして真摯に受け止め、利用者の権利擁護、事業推進、サービスの質の向上に努めました。

また、窓口満足度調査の実施や「ご意見箱」の運用により、ご意見・要望等を聴取し、業務の改善に努めました。

- ・苦情件数:1件

8 リスクマネジメントの推進

リスクマネジメントを職員間で徹底するとともに、事故等発生時の基本的な対応を明確にし職員間で徹底しました。

また、日常的にヒヤリハットの共有を行うとともに、横浜市の社会福祉協議会としてのスケールメリットを活かし、市域の職員全体研修等を通じて事例による検討を行い、事故防止に努めました。

(1) 日々の業務の中でヒヤリハット・事故の共有と改善策について共有(朝・タミーティングの活用)

(2) 職員全体研修(年3回)

- ①今年度の事業計画・重点計画について、水害時避難計画について(4月26日) 参加者:24名
- ②中間期振り返り、BCP、ヒヤリハットについて(9月27日) 参加者:23名
- ③窓口満足度調査、AEDについて(1月31日) 参加者:18名

9 情報公開・個人情報保護制度の運用

社会福祉法の理念に基づき、透明性の高い事業運営に努めました。法人の情報公開制度を基に適切に取り扱いました。また、改正個人情報保護法に対応した個人情報の適切な取り扱いを徹底するとともに、適正かつ効率的に活用し、信頼性の高い運営を行いました。個人情報保護に関する研修を実施し、意識啓発と個人情報の保護に努めました。

10 財政運営の適正化

特色ある区社協活動を進めていくために、賛助会費等自主財源の安定的な確保と財政運営の適正化に努めました。また、広報紙やホームページ等を通じ、本会の活動や事業、会費等の活用について広く発信しました。

| | | | |
|-----------------|------------|----|-------------|
| ・正会費 | 一団体 5,000円 | 合計 | 1,249,600円 |
| ・世帯会費 | | 合計 | 4,128,730円 |
| ・賛助会員運動 | 一口 2,000円 | 合計 | 16,926,010円 |
| ・善意銀行 | | 合計 | 1,878,264円 |
| ・共同募金・年末たすけあい運動 | | 合計 | 30,864,147円 |

11 職員の育成

横浜市社協人材育成計画に沿った職員育成を進めていくとともに、市社協内部研修やウイリング横浜などの外部研修に参加して、職員それぞれがもつ業務の専門性を高めるため、必要な知識、技術の研鑽に努めました。さらに MBO や人事考課制度を活用して、一人ひとりの職員が立場と組織目標を認識して業務遂行しました。

また、小地域支援を事業の柱とする区社協の職員に必要なスキルを高めるため、地区別・事業別業務ミーティングを月2回、内部研修を年3回開催しました。

12 法人運営事務の効率化

インターネットバンキングやスケジュール管理など IT の活用により法人運営事務の効率化を図りました。

- ・インターネットバンキングの活用
- ・グループウェアの活用およびスケジュール管理の効率化

13 団体事務

福祉関係6団体の事務局として、各団体の自主的活動を支援するとともに、団体との連携により、地域福祉を推進しました。なお、港北保護司会は次年度より自主運営することになりました。

・団体事務局

神奈川県共同募金会港北区支会

日本赤十字社神奈川県支部港北区地区委員会

港北保護司会

港北区更生保護女性会

港北区遺族会

港北区「社会を明るくする運動」実施委員会

平成30年度 事業実績一覧

広報

(H31. 3月末現在)

◆区社協ホームページ閲覧件数

| 年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 閲覧件数 | 33,382 | 105,695 | 36,757 | 44,870 | 45,674 |

◆ココマップ閲覧件数

| 年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 閲覧件数 | 245,147 | 222,263 | 209,746 | 201,102 | 248,591 |

あんしんセンター

◆あんしんセンター利用状況

相談・契約件数

| 年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|------|------|------|------|------|------|
| 契約件数 | 30 | 29 | 37 | 42 | 47 |

| 30年度内訳 | 高齢者 | 障がい者 | その他 | 合計 | (純増) |
|----------|-----|------|-----|----|------|
| 定期訪問サービス | 16 | 31 | 0 | 47 | 5 |
| 預かりサービス | 2 | 6 | 0 | 8 | 0 |

| 延活動数 | 内容 | 高齢者 | 障がい者 | その他 | 合計 |
|------|---------|-------|-------|-----|-------|
| | 初回相談 | 33 | 17 | 1 | 51 |
| | 継続相談・活動 | 1,449 | 2,910 | 0 | 4,359 |

要援護者移送サービス

◆件数

| 年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|----|-------|-------|-------|------|------|
| 件数 | 1,103 | 1,186 | 1,079 | 957 | 886 |

「おでかけGO! 港北」

◆相談件数

| 30年度 | | | | | |
|------|----|----|----|-----|-----|
| 通学 | 通所 | 通院 | 余暇 | その他 | 合計 |
| 58 | 61 | 7 | 36 | 28 | 190 |

生活福祉資金

◆生活福祉資金新規貸付件数

| 資 金 名 | | 件 数 |
|----------------|--------|-----|
| 生活福祉資金 | 福祉資金 | 2 |
| | 教育支援資金 | 25 |
| 総合支援資金 | | 0 |
| 臨時特例つなぎ資金 | | 0 |
| 不動産担保型生活資金 | | 1 |
| 緊急小口貸付資金（特例含む） | | 5 |

| | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|------------|------|------|------|------|------|
| 生活福祉資金 | 35 | 46 | 32 | 17 | 27 |
| 総合支援資金 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| つなぎ資金 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 不動産担保型生活資金 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 緊急小口貸付資金 | 10 | 5 | 2 | 2 | 5 |
| 合 計 | 50 | 50 | 54 | 34 | 33 |

◆港北区ふれあい助成金・港北区みんなの助成金審査会

| 開催日 | 主 な 内 容 |
|-------|---|
| 6月4日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 港北区ふれあい助成金・港北区みんなの助成金について 2 平成30年度助成金申請団体について 3 平成30年度港北区ふれあい助成金・港北区みんなの助成金の審査について 4 その他 |
| 9月19日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 平成30年度助成要件等の変更について 2 独自区分の見直しについて 3 その他 |
| 2月19日 | <ol style="list-style-type: none"> 1 本年度配分実績及び次年度予算（予定）について 2 次年度助成要領（案）について 3 ヒアリングの実施について（報告） |

地区社協支援

◆賛助会費金額

| 年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 金額 | ¥17,671,000 | ¥17,822,600 | ¥17,360,020 | ¥16,956,205 | ¥16,926,010 |

◆地区社会福祉協議会分科会（地域部会）

地区社協会長・事務局長合同会議

| 開催日 | 主 な 内 容 |
|--------|--|
| 4月19日 | 【議案】評議員候補者の選任、区社協事業計画、地区社協新任研修、地区社協活動費（市社協補助金）、賛助会員運動 【報告】子どもの居場所づくりサポートモデル事業、行動指針、地区計画ニュース |
| 6月21日 | 【議案】港北区社会福祉大会顕彰候補者の推薦、港北区社会福祉協議会正会費、【報告】地区社協総会の結果、地区社協新任研修の実施結果、第4期横浜市地域福祉保健計画（素案）に関するパブリックコメント、高齢者への見守り活動に係る啓発物提供、横浜で子ども食堂地域食堂をつくろうガイドブック、横浜地域福祉フォーラム、地区社協チェックシート |
| 9月20日 | 【議案】地区社協事業助成金（賛助会費）の交付 【報告】年末たすけあい運動の実施、賛助会員運動プロジェクト（中間報告）、第1回地区社協検討会報告、第35回港北ほくほくフェスタ、第4回よこはま地域福祉フォーラム、「ひっとプラン港北」地区連絡会議の開催 |
| 11月15日 | 【議案】年末たすけあい運動今後の事務の流れ、地区社協事業助成（賛助会費）の交付、地区社協役員と区社協事務局との懇談会、来年度の区社協における地区社協活動支援 【報告】第36回港北ほくほくフェスタ、第2回地区社協検討会報告、地区社協全体会、地域福祉つなぎ隊研修、平成31年度賛助会費の資材 |
| 3月20日 | 【議案】地区社協状況書、港北区社協賛助会員運動、区社協における地区社協活動支援計画（案）、地区社協検討会報告 【報告】地区社協役員と区社協事務局との懇談会結果、地区社会福祉協議会総会日程、年末たすけあい配分金並びに募金結果、講座『なぜ「子どもの居場所」が必要なのか』実施結果、港北区地域福祉保健計画に関する区民意識調査結果報告 |

地区社協事務局長会議

| 開催日 | 主 な 内 容 |
|-------|---|
| 4月19日 | 平成30年度 地区社協活動費（市社協補助金）、賛助会員運動、地区社協の時間 |
| 6月21日 | 賛助会員運動 |
| 9月20日 | 賛助会員運動プロジェクト（中間報告） |
| 2月28日 | 地区社協状況書、港北区社協賛助会員運動について（案）、地区社協関係会議等の日程（案）、地区社協役員と区社協事務局との懇談会開催結果、なぜ今「子どもの居場所」が必要なのかアンケート集計結果 |

福祉保健活動拠点

◆福祉保健活動拠点利用件数

| 団体別利用件数 | ボランティア団体 | 障がい者団体 | その他の団体 | 計 |
|---------|----------|--------|--------|-------|
| | 1,536 | 192 | 1,137 | 2,865 |

| 部屋別利用件数 | 団体交流室 | 多目的研修室 | 点字製作室 | 録音室 | 対面朗読室 |
|---------|-------|--------|-------|-----|-------|
| | 905 | 613 | 299 | 604 | 444 |

| 利用件数 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 4,164 | 3,871 | 4,026 | 3,856 | 2,865 |

ボランティアセンター

◆福祉機器貸し出し件数

| 年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|------|------|------|------|------|------|
| 依頼件数 | 72 | 79 | 83 | 78 | 40 |

◆ボランティア・コーディネーター ※カッコ内は新規登録者

| 年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|-----------|----------|---------|---------|---------|---------|
| 紹介件数 | 97 | 129 | 167 | 145 | 105 |
| コーディネーター率 | 78 | 69 | 95 | 69 | 74 |
| 登録人数(個人) | 568(110) | 551(71) | 595(62) | 595(71) | 663(70) |
| 登録グループ数 | 71(5) | 74(4) | 74(3) | 76(3) | 82(6) |

◆善意銀行寄付状況

| 年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|-------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 寄付金件数 | 32 | 30 | 27 | 40 | 43 |
| 預託品件数 | 2 | 8 | 14 | 12 | 3 |
| 寄付金総額 | ¥2,536,612 | ¥3,241,862 | ¥1,759,706 | ¥1,832,019 | ¥1,878,264 |

福祉教育関係

◆福祉教育相談調整（対応件数：15件/17件）

| 実施日 | 学校・機関名 | 対 象 | 内 容 |
|--------|--------------|-----|--------------------------------------|
| 7月3日 | 大豆戸小学校 | 4年生 | 手話体験 |
| 10月25日 | 綱島小学校 | 4年生 | 視覚障害当事者の話、点字・アイマスク体験 |
| 11月8日 | 綱島小学校 | 4年生 | 手話体験 |
| 9月20日 | 新吉田第二 小学校 | 4年生 | 視覚障害当事者の話、点字・アイマスク体験 |
| 11月7日 | | | 車いす体験 |
| 10月2日 | | | 手話体験 |
| 10月10日 | | | 高齢者疑似体験 |
| 12月6日 | 菊名小学校 | 4年生 | 視覚障害当事者の話 |
| 10月3日 | 師岡小学校 | 4年生 | 車いす体験 |
| 11月12日 | 大綱小学校 | 2年生 | 手話体験 |
| 11月22日 | 大曾根小学校 | 2年生 | 手話体験 |
| 11月9日 | 大曾根小学校 | 4年生 | 視覚障害当事者の話、点字体験 |
| 11月26日 | 太尾小学校 | 6年生 | 盲導犬ユーザーの話 |
| 12月14日 | 城郷小学校 | 4年生 | 手話体験 |
| 2月22日 | 篠原中学校 | 3年生 | 視覚障害当事者の話、点字体験、 認知症サポーター養成講座、手話体験 |

◆福祉教育・講座

| | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 件数 | 21 | 25 | 19 | 14 | 15 |
| 参加人数 | 3,053 | 3,856 | 3,250 | 2,640 | 1,692 |

法人運営

◆理事会 ()は出席者数 ※場所：港北区活動拠点 多目的研修室

| 開催日 | 主 な 内 容 | 結果 |
|---------------------------|---|-----------|
| 6月13日 理事 (7) 監事 (2) | 1 平成29年度事業報告並びに決算報告について 2 平成29年度監事監査報告について 3 評議員候補者の推薦について 4 評議員選任・解任委員会の招集について 5 評議員会の招集について 6 会員の入会承認について | 全て原案どおり承認 |
| 10月3日 理事 (9) 監事 (2) | 1 平成30年度第1回補正予算案について 2 評議員会の招集について | 全て原案どおり承認 |
| 1月17日 理事 (7) 監事 (2) | 1 評議員選任・解任委員会の招集について 2 評議員選任候補者の推薦について 3 会員の入会承認について | 全て原案どおり承認 |
| 3月13日 理事 (8) 監事 (2) | 1 平成31年度港北区社会福祉協議会事業計画並びに一般会計収入支出予算案について 2 平成31年度港北区福祉保健活動拠点事業計画並びに収入支出予算案について 3 監事候補者の推薦について 4 平成30年度第3回評議員会の招集について | 全て原案どおり承認 |

◆監事会 ()は出席者数 ※場所：港北区活動拠点 対面朗読室

| 開催日 | 主 な 内 容 | 結果 |
|-----------------|---------------------------------------|--------------|
| 5月28日 監事 (3) | ・平成29年度港北区社会福祉協議会事業執行状況、経理状況及び財産状況の監査 | 正しく適正であると認める |

◆評議員選任・解任委員会 ()は出席者数

| 開催日 | 主 な 内 容 | 結果 |
|-----------------|---|---------|
| 6月13日 委員 (3) | ・社会福祉法人横浜市港北区社会福祉協議会評議員欠員等による次期評議員の選任について | 原案どおり承認 |
| 1月17日 委員 (3) | ・社会福祉法人横浜市港北区社会福祉協議会評議員欠員等による次期評議員の選任について | 原案どおり承認 |

◆評議員会 ()は出席者数 ※場所：港北区活動拠点 多目的研修室

| 開催日 | 主 な 内 容 | 結果 |
|------------------------------|---|---------|
| 6月28日 評議員 (15) 役員 (5) | 1 平成29年度事業報告について 2 平成29年度決算報告について 3 平成29年度監事監査報告について 4 理事の選任について | 原案どおり承認 |
| 10月25日 評議員 (14) 役員 (4) | 1 平成30年度第1回補正予算案について | 原案どおり承認 |
| 3月27日 評議員 (20) 役員 (4) | 1 平成31年度港北区社会福祉協議会事業計画並びに一般会計収入支出予算案について 2 平成31年度港北区福祉保健活動拠点事業計画並びに収入支出予算案について 3 監事候補者の選任について | 原案どおり承認 |

◆ボランティア・市民活動分科会（地域部会）

| 開催日 | 主 な 内 容 |
|--------|----------------------------------|
| 4月19日 | 事業計画、ボランティア市民活動分科会新聞編集、施設見学について |
| 5月17日 | 講座について、施設見学について、シニア大学について、新聞について |
| 6月21日 | 施設見学について、講座について |
| 7月19日 | 施設見学 宇宙航空研究開発機構 |
| 9月20日 | ほくほくフェスタについて、講座①について |
| 10月18日 | ほくほくフェスタについて、講座①について |
| 11月2日 | ほくほくフェスタ当日～パネル展示～ |
| 11月15日 | 講座①について |
| 11月17日 | ボランティア講座①「広報力アップ講座」 |
| 12月20日 | 講座①の振り返り、講座②について |
| 1月17日 | 講座②について |
| 2月21日 | 講座②について、次年度事業計画について |
| 2月23日 | ボランティア講座②「高ちゃんのお役立ちボラ講座」 |
| 3月28日 | 講座②振り返り、次年度計画について |

◆在宅福祉分科会（専門部会・地域部会）

| 開催日 | 主 な 内 容 |
|--------|---|
| 5月23日 | 平成30年度分科会の取組について |
| 7月25日 | 家事生活支援団体立ち上げマニュアルの検討について |
| 9月26日 | 家事生活支援団体立ち上げマニュアルの検討について |
| 11月28日 | 家事生活支援団体立ち上げマニュアルの検討について ・生活支援コーディネーターを交えて |
| 1月23日 | 家事生活支援団体立ち上げマニュアルの検討について |
| 3月27日 | 家事生活支援団体立ち上げマニュアルの検討について |

◆障害者セーフティネット分科会（当事者部会・専門部会）

全体会

| 開催日 | 主 な 内 容 |
|--------|-------------------------------------|
| 5月18日 | 平成30年度の活動内容（講座企画、活動発表会など）について検討 |
| 7月20日 | 活動発表会、内部勉強会・交流会（北綱島特別支援学校について） |
| 9月21日 | 勉強会について、ほくほくフェスタについて、防災拠点訓練への参加について |
| 11月16日 | 分科会主催の講演会について検討、地域防災拠点訓練参加報告、活動発表会 |
| 1月18日 | 分科会主催の講演会について検討、来年度の分科会の活動内容について |
| 3月15日 | 今年度の振り返り、次年度の分科会活動について |

役員会

| 開催日 | 主 な 内 容 |
|--------|-------------------------------------|
| 4月20日 | 平成30年度の活動内容（講座企画、活動発表会など）について検討 |
| 6月15日 | 活動発表会の詳細について、内部勉強会について |
| 8月17日 | 勉強会について、ほくほくフェスタについて、防災拠点訓練への参加について |
| 10月19日 | 活動発表会の詳細について、講演会の企画について |
| 12月21日 | 来年度の分科会の活動内容について、講演会の企画について |
| 2月15日 | 平成31年度 分科会活動計画について |

講演会

| 開催日 | 主 な 内 容 |
|-------|--|
| 2月18日 | 障がいのこと共に知ろう考えよう ～いつ起こるかわからない災害に備えて～ |

◆保育所分科会（専門部会）

| 開催日 | 主 な 内 容 |
|-------|---|
| 5月11日 | 情報交換「新年度に入って各園の取組」 |
| 7月13日 | 研修「豊かな人間関係を築くコミュニケーション」 （対象：主任保育士） 講師：代表理事 橋口 奈生 氏（一般社団法人Seeds growth coaching） |
| 9月14日 | 区内小規模保育園との交流会 「子育て施設の災害時における地域との連携のために ～“まち保育”の観点から取り組んでみよう！」 講師：三輪 律江 氏（横浜市立大学都市社会文化研究科准教授） |
| 11月9日 | 子育て支援団体との交流会 ①デイリータッチケア講座 講師：宇都木 薫子 氏 （Ohanaデイリータッチケアセラピスト®、IHTAチャイルドボディセラピストインストラクター、AEAJアロマセラピーアドバイザー） ②交流会 |
| 1月11日 | 研修「コーチングコミュニケーション」（対象：経験年数3年目以上の保育士） 講師：代表理事 橋口 奈生 氏（一般社団法人Seeds growth coaching） |
| 3月8日 | 次年度事業計画について |

◆ボランティアセンター運営委員会

| 開催日 | 主 な 内 容 |
|-------|-------------------------------------|
| 9月11日 | 平成30年度上半期事業報告、善意銀行事業報告 |
| 3月12日 | 平成30年度下半期事業報告、善意銀行事業報告、31年度事業計画について |

◆区社協新規会員数

| 団体種別 | 第1種 （施設） | 第2種 （地区民児協） | 第5種 （当事者） | 第6種 （ボランティア） | 第7種 （福祉団体） |
|------|-------------|----------------|--------------|-----------------|---------------|
| 団体数 | 4 | 0 | 0 | 3 | 0 |

| 年 度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 団体数 | 9 | 4 | 3 | 9 | 7 |

◆苦情件数

| 制 度 | 手続き | 職員等の対応 | 事 業 | その他 |
|-----|-----|--------|-----|-----|
| 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |

| 年 度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 件 数 | 2 | 3 | 3 | 2 | 1 |

港北区ふれあい助成金・港北区みんなの助成金 配分団体一覧表

| 区分 | 番号 | 団体名 | 代表者 | 申込事業 | 助成金決定額 |
|--------|------|----------------------------|-------|---------|---------|
| 要援護者支援 | 1001 | ほのぼ～の | 朝田尚子 | 集いの場 | 40,000 |
| 要援護者支援 | 1002 | かもめのつどい | 高橋キヨ子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1003 | 大豆戸民児協まめのきひろば | 木村真砂子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1004 | 元気な笑顔 | 中村悦男 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1005 | 配食よつ葉会 | 外山登志子 | 配食 | 240,000 |
| 要援護者支援 | 1006 | まちの縁側 そよご | 稲垣弘子 | 集いの場 | 50,000 |
| 要援護者支援 | 1007 | 菊名ハイツボランティアの会 | 富田和江 | 集いの場 | 200,000 |
| 要援護者支援 | 1008 | 移動サービスワーカーズコレクティブ らら・むーぶ港北 | 眞智康恵 | 送迎 | 350,000 |
| 要援護者支援 | 1009 | チーム おいもぼり | 堀悌一 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1010 | 竹の子につば | 鈴木京子 | 集いの場 | 40,000 |
| 要援護者支援 | 1011 | Mirumiru | 岡律子 | 集いの場 | 60,000 |
| 要援護者支援 | 1012 | 篠原台町 みどりの会 | 立野京子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1013 | 城郷ひろば | 橋本あや子 | 集いの場 | 120,000 |
| 要援護者支援 | 1014 | さつきクラブ | 高津志津子 | 集いの場 | 120,000 |
| 要援護者支援 | 1015 | 子育て支援グループ まーぶる | 片平美恵子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1016 | おれんじの会 | 古田富美恵 | 集いの場 | 120,000 |
| 要援護者支援 | 1017 | 師岡こども学習会 | 今村妙子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1018 | 西町のつどい | 服部光子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1019 | コミュニティスペース港北 ラェるびーサロンW.Co路 | 横溝純子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1020 | ふくしの和・高田 | 寺尾眞喜 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1021 | 宮前交流カフェプロジェクト | 足立弘 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1022 | みちくさの会 | 井上禮子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1023 | ほっと新吉田 | 西仁美 | 家事・生活支援 | 160,000 |
| 要援護者支援 | 1024 | いこいの会 | 臼井ひろみ | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1025 | ミニ樽サロン運営委員会 | 吉原富美子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1026 | 太尾っ子広場 | 小野治美 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1028 | 土井町茶話会 | 堤信子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1029 | こどものへや文庫 | 吉田直子 | 集いの場 | 70,000 |
| 要援護者支援 | 1030 | ミニデイサービス お茶の間 | 新井さち子 | 集いの場 | 70,000 |
| 要援護者支援 | 1031 | おおそねちびサロン | 飯塚隆子 | 集いの場 | 70,000 |
| 要援護者支援 | 1032 | こんぺいとうさん | 今西恒平 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1033 | プラザ城郷 | 阿藤美智子 | 集いの場 | 70,000 |
| 要援護者支援 | 1034 | 子育て支援ワーカーズコレクティブmonami | 菊地恭子 | 集いの場 | 400,000 |
| 要援護者支援 | 1035 | WAIWAIみんなの箕輪クラブ | 小島清 | 集いの場 | 40,000 |
| 要援護者支援 | 1036 | なごみの会 | 白鳥千代子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1037 | あみねっと | 岡本忠亮 | 集いの場 | 300,000 |
| 要援護者支援 | 1038 | 「ダンラン」男同志の昼食会 | 山本凱夫 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1039 | 菊名南町ボランティア ひな菊 | 佐野美保子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1040 | 花しょうぶ | 椎名真生 | 集いの場 | 70,000 |
| 要援護者支援 | 1041 | コーヒーサロンわいわい城郷 | 山崎正二 | 集いの場 | 120,000 |
| 要援護者支援 | 1042 | グループひまわり | 鈴木笑子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1043 | 綱島つくしの会 | 松川友子 | 集いの場 | 180,000 |
| 要援護者支援 | 1044 | とことこの会 | 磯村千春 | 集いの場 | 70,000 |
| 要援護者支援 | 1045 | 大曽根やすらぎ昼食会 | 松村富美子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1046 | 篠原北地区民生委員児童委員協議会 | 鈴木久子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1047 | あったかだ | 池谷寿奈子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1048 | 新田クラブ | 猪股八重子 | 集いの場 | 120,000 |
| 要援護者支援 | 1049 | 港北子育て支援W.Co ココット | 野村潤子 | 集いの場 | 40,000 |
| 要援護者支援 | 1050 | ベビそね | 吉田理江 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1051 | はあとネットワーク港北 | 藤井文子 | 集いの場 | 120,000 |
| 要援護者支援 | 1052 | 太尾ふれあいクラブ | 竹崎理浩 | 家事・生活支援 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1053 | みんなの広場 | 中村康代 | 集いの場 | 50,000 |
| 要援護者支援 | 1054 | みんなの食場@ママサポ | 児島玄子 | 家事・生活支援 | 400,000 |
| 要援護者支援 | 1055 | 城郷よってこ会 | 櫻井秀武 | 集いの場 | 300,000 |
| 要援護者支援 | 1056 | 高田っ子育て | 和泉千津子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1057 | 特定非営利活動法人ポケット | 金田友美 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1058 | 篠原東福祉部いこいの集い | 出原尚子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1059 | 子育てサロンはひふへほ | 小林純子 | 集いの場 | 180,000 |

港北区ふれあい助成金・港北区みんなの助成金 配分団体一覧表

| 区分 | 番号 | 団体名 | 代表者 | 申込事業 | 助成金決定額 |
|--------|------|--------------------------|-------|------------|---------|
| 要援護者支援 | 1060 | ひなたぼっこ | 田中博子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1061 | ハッピーママ | 松崎綾子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1062 | おしゃべりサロン | 垣中佳子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1063 | みんなの食場@港北 | 笠原徳子 | 集いの場 | 300,000 |
| 要援護者支援 | 1064 | 綱島東ボランティア | 吉原直美 | 配食 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1065 | スリーA教室元気！！ | 永野和子 | 集いの場 | 40,000 |
| 要援護者支援 | 1066 | キッチンいこい | 小川紀美子 | 配食 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1067 | デイサービス りんどうの会 | 村野明美 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1068 | サロン小机 | 八嶋恵子 | 集いの場 | 120,000 |
| 要援護者支援 | 1069 | 宮前赤ちゃん会2 | 福井多喜子 | 集いの場 | 60,000 |
| 要援護者支援 | 1070 | かもみいる運営委員会 | 久保乃理子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1071 | 子育てサロン たんぽぽにっぼ | 長瀬絵香 | 集いの場 | 120,000 |
| 要援護者支援 | 1072 | コミバス市民の会 | 入江勝通 | 送迎 | 300,000 |
| 要援護者支援 | 1073 | わだねの会 | 壬生慶子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1074 | 綱島西ボランティアグループ | 松尾孝子 | 配食 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1075 | 特定非営利活動法人 横浜子育て支援グループぼっけ | 渡邊歌子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1076 | おおきくなあれ | 上田美穂 | 集いの場 | 180,000 |
| 要援護者支援 | 1077 | コーヒーボランティア らんらん | 服部知行 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1078 | 回想法で思い出話を楽しむ会 | 佐川千明 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1079 | カラダづくりサロン・鳥山健康大学 | 高橋亮星 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1080 | 郷づくり濱なかま | 岩田聡子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1081 | 学びのサロンとりやまアカデミア | 大野芳美 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1082 | 港北区移動サービスを考える会 | 安岡信幸 | 送迎 | 220,000 |
| 要援護者支援 | 1083 | やまびこの会 | 由井昌子 | 配食 | 120,000 |
| 要援護者支援 | 1084 | おはなし、な～に？ | 高橋真由美 | 集いの場 | 70,000 |
| 要援護者支援 | 1085 | サロン・コンフォール南日吉 | 紀伊福子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1086 | ちびたる | 市川智美 | 集いの場 | 180,000 |
| 要援護者支援 | 1087 | 子育てサロン ‘このゆびと～まれ！’ | 関治美 | 集いの場 | 40,000 |
| 要援護者支援 | 1088 | 子育てサロン 新横浜花の輪クラブ | 菊城恵子 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1089 | なごみ会 | 高久志江 | 集いの場 | 80,000 |
| 要援護者支援 | 1090 | 表谷交流サロン会 | 金子安夫 | 集いの場 | 250,000 |
| 要援護者支援 | 1091 | 大倉山地区社会福祉協議会 | 飯山精三 | 集いの場 | 300,000 |
| 要援護者支援 | 1092 | 綱島地区「ふれあいサロン」 | 長友健一 | 集いの場 | 60,000 |
| 要援護者支援 | 1093 | ふらっと高田 | 相澤昇 | 集いの場 | 400,000 |
| 障害児者支援 | 2001 | おひさまっ子の会水泳部 | 東海林裕一 | 障害児者支援 | 100,000 |
| 障害児者支援 | 2002 | 木10会 | 森一彦 | 当事者活動 | 40,000 |
| 障害児者支援 | 2003 | アダージョ | 大塚綾子 | 障害児者支援 | 80,000 |
| 障害児者支援 | 2004 | 横浜ドリーマーマーメイド | 新居智子 | 当事者活動 | 100,000 |
| 障害児者支援 | 2005 | 書葉会 | 後藤悠子 | 障害児者支援 | 100,000 |
| 障害児者支援 | 2006 | 横浜レジェンド | 高田勝哉 | 障害児者支援 | 150,000 |
| 障害児者支援 | 2007 | こうづき会 | 早瀬明子 | 宿泊・日帰りハイク | 50,000 |
| 障害児者支援 | 2008 | めだか会 | 三好宇女 | 障害児者支援 | 160,000 |
| 障害児者支援 | 2009 | ツインバスケットボールを楽しむ会 | 杉野政広 | 障害児者支援 | 150,000 |
| 障害児者支援 | 2010 | ディスクレイジー | 岩澤秀明 | 当事者活動 | 40,000 |
| 障害児者支援 | 2011 | 拡大写本グループ赤いくつ | 付岡博子 | 視覚・聴覚障害者支援 | 50,000 |
| 障害児者支援 | 2012 | 横浜北部失語症友の会 | 堀江光司 | 当事者活動 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2013 | ニセキの会スイミング | 内田衣里 | 障害児者支援 | 40,000 |
| 障害児者支援 | 2014 | 宮前ドルフィン(横浜ドルフィン) | 小山千利 | 障害児者支援 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2015 | 横浜ドリーマー アーチェリークラブ | 吉澤史彦 | 当事者活動 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2016 | ラポールFC | 山田幸雄 | 当事者活動 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2017 | スィミー | 落合京子 | 障害児者支援 | 150,000 |
| 障害児者支援 | 2018 | 横浜ドリーマーポップ | 西脇かほる | 障害児者支援 | 100,000 |
| 障害児者支援 | 2019 | 音楽療法横浜グループ | 坂根一美 | 当事者活動 | 150,000 |
| 障害児者支援 | 2020 | ブラッシュSTC | 鬼頭律子 | 障害児者支援 | 100,000 |
| 障害児者支援 | 2021 | ポパイ | 早川篤子 | 障害児者支援 | 40,000 |
| 障害児者支援 | 2022 | 「書の会」失語症の方のための書道教室 | 山口滋 | 当事者活動 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2023 | 横浜ドリーマーフライングディスククラブ | 西原雅子 | 当事者活動 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2024 | SCみどり | 岩撫文彦 | 当事者活動 | 150,000 |

港北区ふれあい助成金・港北区みんなの助成金 配分団体一覧表

| 区分 | 番号 | 団体名 | 代表者 | 申込事業 | 助成金決定額 |
|----------|------|--------------------------|-------|------------|---------|
| 障害児者支援 | 2025 | こどものためのハチャメチャアトリエ | 安田美奈子 | 障害児者支援 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2026 | ラポール卓友会 | 石河恵美 | 当事者活動 | 150,000 |
| 障害児者支援 | 2027 | 横浜レッドブリックス | 齊藤誠 | 障害児者支援 | 150,000 |
| 障害児者支援 | 2028 | 港北区視覚障害者福祉協会 | 加藤芳保 | 宿泊・日帰りハイク | 50,000 |
| 障害児者支援 | 2029 | 障がい児者のよりどころ ふれんど | 畔柳三笑 | 当事者活動 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2030 | 港北区手話サークルあじさいの会 | 山口タケシ | 視覚・聴覚障害者支援 | 50,000 |
| 障害児者支援 | 2031 | ヒップホップダンスクラブ | 天野智子 | 障害児者支援 | 100,000 |
| 障害児者支援 | 2032 | ノヘアブア | 吉川美保 | 障害児者支援 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2033 | 水泳同好会サッシュ | 隈部愛子 | 障害児者支援 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2034 | 港北録音グループ | 鍋島千秋 | 視覚・聴覚障害者支援 | 50,000 |
| 障害児者支援 | 2035 | お茶の会 | 清水享香 | 障害児者支援 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2036 | 白梅会 | 小嶋雅子 | 障害児者支援 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2037 | 雅きり絵会 | 上田良司 | 当事者活動 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2038 | 高田パソコンクラブ | 池田勝彦 | 当事者活動 | 84,000 |
| 障害児者支援 | 2039 | 横浜いるかスイミングクラブ | 西幸子 | 障害児者支援 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2040 | セサミ香房 | 井上麻子 | 障害児者支援 | 30,000 |
| 障害児者支援 | 2041 | 舞岡のKAZE | 本郷直子 | 宿泊・日帰りハイク | 50,000 |
| 障害児者支援 | 2042 | 港北区肢体障害者福祉協会 | 永沼栄輝 | 宿泊・日帰りハイク | 50,000 |
| 障害児者支援 | 2043 | 声を楽しむ声楽教室 | 姜幸吉 | 障害児者支援 | 200,000 |
| 障害児者支援 | 2044 | ふれあい・こんさ〜と実行委員会 | 杉本昌子 | 障害児者支援 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2045 | 水泳クラブグッピー | 若木美香 | 当事者活動 | 100,000 |
| 障害児者支援 | 2046 | フリッパーの会 | 菅由美 | 障害児者支援 | 100,000 |
| 障害児者支援 | 2047 | ダンスワークかれん | 井桁幸子 | 障害児者支援 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2048 | YOKOHAMA Bay Dream P.S.C | 木村鈴恵 | 障害児者支援 | 100,000 |
| 障害児者支援 | 2049 | ウォーターボーイズ | 臼井みゆき | 当事者活動 | 160,000 |
| 障害児者支援 | 2050 | ドリーマ・サンワテニスクラブ | 三崎邦一 | 当事者活動 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2051 | 横浜ボッチャ倶楽部 | 佐藤 正 | 障害児者支援 | 90,000 |
| 障害児者支援 | 2052 | はっぴいかいと | 朝倉聡 | 障害児者支援 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2053 | 横浜ドリーマレクリエーションクラブ | 加藤昭八 | 当事者活動 | 200,000 |
| 障害児者支援 | 2054 | 横浜ドリーマースHORTテニスクラブ | 水田哲也 | 当事者活動 | 120,000 |
| 障害児者支援 | 2055 | グループペンギンA | 斎藤由起子 | 当事者活動 | 100,000 |
| 障害児者支援 | 2056 | ABM | 小平和枝 | 障害児者支援 | 150,000 |
| 障害児者支援 | 2057 | 横濱義塾 | 月村安孝 | 当事者活動 | 150,000 |
| 障害児者支援 | 2058 | 港北区障害者地域活動ホームしもだ | 片野芳昭 | 宿泊・日帰りハイク | 50,000 |
| 障害児者支援 | 2059 | コスモス工房 | 片野芳昭 | 宿泊・日帰りハイク | 50,000 |
| 障害児者支援 | 2060 | 光る波(シュタイナーを学び障がいを考える会) | 山口悦子 | 障害児者支援 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2061 | 横浜市中途失聴・難聴者協会 | 鈴木真実 | 視覚・聴覚障害者支援 | 20,000 |
| 障害児者支援 | 2062 | 特定非営利活動法人 躍動塾 | 佐藤竜一 | 障害児者支援 | 150,000 |
| 障害児者支援 | 2063 | ピアサポート・L | 本儀まり | 当事者活動 | 40,000 |
| 障害児者支援 | 2064 | 横浜レインボー | 加古龍志 | 当事者活動 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2065 | ハーモニー | 小宅百代 | 障害児者支援 | 40,000 |
| 障害児者支援 | 2066 | あるく会(ウォーキングエンジェルス) | 金子佐登資 | 当事者活動 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2067 | 横浜ラポールアトム会 | 日高昭敏 | 当事者活動 | 150,000 |
| 障害児者支援 | 2068 | しらゆり会 | 齋藤安雄 | 当事者活動 | 60,000 |
| 障害児者支援 | 2069 | 港北手話サークル梅の会 | 半田美香 | 視覚・聴覚障害者支援 | 50,000 |
| 障害児者支援 | 2070 | ザ・ストロークススポーツクラブみなと会 | 花塚竹次 | 当事者活動 | 100,000 |
| 障害児者支援 | 2071 | ラ・ストラダ Jr | 久保田章 | 宿泊・日帰りハイク | 50,000 |
| 障害児者支援 | 2072 | 楽友会 | 小川哲夫 | 障害児者支援 | 70,000 |
| 障害児者支援 | 2073 | リンデンーカフェ杜ー | 大井加奈子 | 宿泊・日帰りハイク | 30,000 |
| 障害児者支援 | 2074 | 横浜ひよこ教室 幼児部 | 高岡恵 | 障害児者支援 | 150,000 |
| 福祉のまちづくり | 3001 | ワンツートリミック | 平山寛子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3002 | ともだちや | 漆原友子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3003 | 親子サークル ドナルドダック | 濱田彩 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3004 | おひさまたんけんたい | 小松由希子 | 福祉のまちづくり | 27,000 |
| 福祉のまちづくり | 3005 | ぞうさんの帽子 | 野口美佳 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3006 | しのはランド | 井上弥生 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3007 | オリーブの会 | 天野由紀江 | 福祉のまちづくり | 30,000 |
| 福祉のまちづくり | 3008 | NPO法人フォーラム・アソシエ | 元木知子 | 福祉のまちづくり | 30,000 |

港北区ふれあい助成金・港北区みんなの助成金 配分団体一覧表

| 区分 | 番号 | 団体名 | 代表者 | 申込事業 | 助成金決定額 |
|----------|------|---------------------------|-------|----------|--------|
| 福祉のまちづくり | 3009 | フライデー会 | 松永育仔 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3010 | ま～の・ま～の | 山下佐千子 | 福祉のまちづくり | 30,000 |
| 福祉のまちづくり | 3011 | 仲手原自治会ふれあい祭り実行委員会 | 斉藤眞幾男 | 福祉のまちづくり | 30,000 |
| 福祉のまちづくり | 3012 | 公園あそびの会 おるたん | 伊藤久美子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3013 | 太尾フレンドサロン・いこい | 小沢義雄 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3014 | 楽々フット | 臼井シサヨ | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3015 | ハートハーモニー | 加藤悦子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3016 | 新横浜若年性認知症の人と家族の会(SJNK) | 塩崎一昌 | 福祉のまちづくり | 30,000 |
| 福祉のまちづくり | 3017 | 港北おはなし会 | 石川美江子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3018 | ウエルカム | 設楽祐子 | 福祉のまちづくり | 37,000 |
| 福祉のまちづくり | 3019 | 四季の音 | 宮澤徹 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3020 | おはなしキラキラぼっけ | 川上あき子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3021 | アトリエつくろ | 村田直美 | 福祉のまちづくり | 25,000 |
| 福祉のまちづくり | 3022 | 人形劇団「星と海」 | 稲垣なつ子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3023 | 介護を考えるぶどうの会 | 小形晴身 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3024 | 港北文庫のつどい | 森田弘恵 | 福祉のまちづくり | 30,000 |
| 福祉のまちづくり | 3025 | 横浜港北おもちゃドクターの会 | 松田義二 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3026 | ボランティア「ねこぼす」グループ | 杉本康希 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3028 | 日吉に子育てに関するネットワークを作る会 | 稲田奈津子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3029 | ちょうどよい暮らしの会 | 佐藤美香 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3030 | えんがわの家 よってこ しもだ | 増井佐緒里 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3031 | ツチノコネット | 中野律子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3032 | ポコ・ア・ポコ | 中里遵子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3033 | 日吉キッズステーション | 神島理恵子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3034 | 子どもの居場所を考える会 | 喜田美登里 | 福祉のまちづくり | 30,000 |
| 福祉のまちづくり | 3035 | 大曽根福祉まつり実行委員会 | 高橋紀夫 | 福祉のまちづくり | 30,000 |
| 福祉のまちづくり | 3036 | ハンディを持つ人のためのミニフォーラム「咲良」 | 田辺恵子 | 福祉のまちづくり | 30,000 |
| 福祉のまちづくり | 3037 | 光輪 | 黒田道子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3038 | 港北区子育て支援ボランティア「ポケット」 | 松田正樹 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3039 | 「地元を知ろう！太尾健康ウォーキング」実行委員会 | 天満尚二 | 福祉のまちづくり | 30,000 |
| 福祉のまちづくり | 3040 | 大倉山支えあい祭り実行委員会 | 植木貞雄 | 福祉のまちづくり | 30,000 |
| 福祉のまちづくり | 3041 | 音楽ボランティアフルール | 山本真由美 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3042 | ふれあい歌声の会 | 小林昭夫 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3043 | 生涯学習 グループ大地 | 河野雅人 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3044 | 篠原地区ボランティア連絡会 | 井上禮子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3045 | 公園遊びの会わくわく | 相原紗夢 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3046 | 港北子育て支援W.Coぼけっと | 古賀由美子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3047 | 大倉山グローバルプロジェクト | 小澤麻美 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3048 | きくなびよんぴよん | 金子かおる | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3049 | 特定非営利活動法人精神保健を考える会まいんどくらぶ | 渡邊久子 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 福祉のまちづくり | 3050 | ひよこの会 | 伊藤誉子 | 福祉のまちづくり | 25,000 |
| 福祉のまちづくり | 3051 | 克美企画 | 本間克之 | 福祉のまちづくり | 40,000 |
| 要援護者支援 | 4001 | 仲手原南ボランティア夢クラブ | 宮田紘子 | 集いの場 | 70,000 |
| 健康増進 | 4002 | おまめアップチーム | 小林忠男 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4003 | 新吉田北部町内会「さわやか北部」 | 福島千代子 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4004 | シルバー体操新吉田 | 堀内みゆき | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4005 | 伸び伸びスターズ | 江澤直人 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4006 | すみれのびのび体操 | 岡田徹 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4007 | 健康体操クラブ | 鮎田恵美子 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4008 | 気楽会 | 中野満 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4009 | 男の生活百科 | 山崎清悦 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4010 | 大曽根男の料理教室 | 宮澤徹 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4011 | 粋な男の体操サークル | 伊藤博 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4012 | 本町なでしこ会 | 豊田光雄 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4013 | ジャスマンの会 | 豊田千鶴子 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4014 | ウォーキングくらぶ たんぽぽ | 小川誉郎 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4015 | 堀崎体操教室 | 薄葉 忠 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4016 | あすなる会 | 浜田千春 | 健康増進 | 10,000 |

港北区ふれあい助成金・港北区みんなの助成金 配分団体一覧表

| 区分 | 番号 | 団体名 | 代表者 | 申込事業 | 助成金決定額 |
|---------|--------|-----------------------------|-------|-----------|---------|
| 健康増進 | 4017 | ニューヘルス | 柏木美代子 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4018 | シルバー健康体操宮前教室 | 阿部滋敏 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4019 | 新羽はつらつストレッチ | 青島幸子 | 健康増進 | 10,000 |
| 健康増進 | 4020 | 健康体操教室の会 | 野々山浩江 | 健康増進 | 10,000 |
| 港北区独自区分 | 5001 | 樽町地区計画推進委員会 | 小口照夫 | 1)イベント | 100,000 |
| 港北区独自区分 | 5002 | 港北子育て懇談会 | 守屋玉恵 | 1)イベント | 200,000 |
| 港北区独自区分 | 5003 | 親子コンサートプロジェクト | 川原裕美子 | 1)イベント | 200,000 |
| 港北区独自区分 | 5004 | 新吉田地区ふれあい動物園実行委員会 | 宮田房子 | 1)イベント | 200,000 |
| 港北区独自区分 | 5005 | 港北区地域作業所連絡会 | 水越弘子 | 1)イベント | 120,000 |
| 港北区独自区分 | 8001 | わがまち篠原 | 川島武俊 | 4)地区別計画推進 | 90,000 |
| 港北区独自区分 | 8003 | 「ひとつプラン港北」新吉田地区推進委員会 | 小林辰雄 | 4)地区別計画推進 | 100,000 |
| 港北区独自区分 | 8007 | ハートフル大曾根 | 高橋静明 | 4)地区別計画推進 | 50,000 |
| 港北区独自区分 | 8008 | 光と活力活動発表会実行委員会 | 片野芳昭 | 4)地区別計画推進 | 100,000 |
| 港北区独自区分 | 8009 | ひとつプラン港北新羽地区推進委員会情報発信部会 | 望月俊一 | 4)地区別計画推進 | 80,000 |
| 港北区独自区分 | 8002-① | 菊名地区ひとつプラン推進委員会 | 金子清隆 | 4)地区別計画推進 | 100,000 |
| 港北区独自区分 | 8004-① | 大倉山地区社会福祉協議会(地域福祉保健計画推進委員会) | 飯山精三 | 4)地区別計画推進 | 30,000 |
| 港北区独自区分 | 8004-② | 大倉山地区社会福祉協議会(地域福祉保健計画推進委員会) | 飯山精三 | 4)地区別計画推進 | 70,000 |
| 港北区独自区分 | 8005-① | たすけあうまち城郷推進委員会 | 高瀬勝 | 4)地区別計画推進 | 40,000 |
| 港北区独自区分 | 8005-② | たすけあうまち城郷推進委員会 | 高瀬勝 | 4)地区別計画推進 | 40,000 |
| 港北区独自区分 | 8006-① | 「ひとつプラン港北」綱島地区計画推進員会 | 佐藤誠三 | 4)地区別計画推進 | 70,000 |
| 港北区独自区分 | 8006-② | 「ひとつプラン港北」綱島地区計画推進員会 | 佐藤誠三 | 4)地区別計画推進 | 30,000 |
| 新規立上げ | 9001 | ふだん着絆 | 山崎郁夫 | 集いの場 | 40,000 |
| 新規立上げ | 9002 | レコードミュージックプラザ | 川名利夫 | 集いの場 | 40,000 |
| 新規立上げ | 9003 | 横浜ボッチャーズ | 山寺由美子 | 障害児者支援 | 40,000 |
| 新規立上げ | 9004 | 樽町なごみ食堂 | 奈良隆一 | 集いの場 | 40,000 |

平成30年度 善意銀行預託金状況

【金銭】

| No | 寄付日 | 寄付金額 | 寄付者 |
|----|--------|---------|-----------------------------------|
| 1 | 4月7日 | 50,000 | 横浜市港北区仏教会 会長村上宥真 |
| 2 | 4月20日 | 5,000 | 匿名 |
| 3 | 4月25日 | 50,000 | 横浜市立新田小学校 昭和二十三年卒業生有志 代表 宮田眞之輔 |
| 4 | 5月18日 | 5,000 | 匿名 |
| 5 | 5月28日 | 20,770 | ゆとりのカラオケ |
| 6 | 6月12日 | 37,632 | 新都山流神奈川県支部 |
| 7 | 6月15日 | 133,162 | 匿名 |
| 8 | 6月20日 | 5,000 | 匿名 |
| 9 | 6月29日 | 36,250 | 港北三曲会 |
| 10 | 7月5日 | 10,000 | 匿名 |
| 11 | 7月15日 | 50,000 | 港北すみれの会 |
| 12 | 7月20日 | 5,000 | 匿名 |
| 13 | 8月20日 | 5,000 | 匿名 |
| 14 | 8月27日 | 1,200 | 太尾宮前町会 |
| 15 | 9月12日 | 30,000 | 港北すみれの会 |
| 16 | 9月20日 | 5,000 | 匿名 |
| 17 | 9月25日 | 32,169 | 港北芸能愛好会 |
| 18 | 10月10日 | 74,684 | 貴美会 |
| 19 | 10月22日 | 5,000 | 匿名 |
| 20 | 10月24日 | 50,000 | 匿名 |
| 21 | 11月5日 | 34,043 | 港北邦楽協会 |
| 22 | 11月8日 | 13,575 | 港北芸能協会 |
| 23 | 11月16日 | 10,000 | 視覚障害を理解する会 |
| 24 | 11月20日 | 10,000 | 港北三曲会 |
| 25 | 11月20日 | 5,000 | 匿名 |
| 26 | 11月21日 | 80,000 | 一般社団法人神奈川青色申告会 |
| 27 | 11月30日 | 58,255 | 菊名寿楽荘 |
| 28 | 11月30日 | 77 | 横浜市立中学校港北区個別支援学級 |
| 29 | 12月10日 | 10,000 | フラ港北レファ |
| 30 | 12月13日 | 10,000 | PCぱれっと |
| 31 | 12月18日 | 18,500 | 表谷町内会 |
| 32 | 12月18日 | 100,000 | 匿名 |

| | | | |
|----|--------|-----------|-------------------------|
| 33 | 12月19日 | 80,000 | 公益社団法人 神奈川法人会 女性部会 |
| 34 | 12月20日 | 5,000 | 匿名 |
| 35 | 12月25日 | 30,493 | 港北区老人クラブ連合会 |
| 36 | 12月25日 | 150,000 | リーダー電子株式会社 |
| 37 | 1月21日 | 5,000 | 匿名 |
| 38 | 2月20日 | 5,000 | 匿名 |
| 39 | 2月20日 | 500,000 | 久保寺 豊子 |
| 40 | 2月27日 | 8,225 | 株式会社 イトーヨーカドー 労働組合 綱島支部 |
| 41 | 3月13日 | 70,000 | 横浜労働者福祉協議会 北部支部 |
| 42 | 3月20日 | 5,000 | 匿名 |
| 43 | 3月29日 | 59,229 | 横浜アリーナ |
| | 合計 | 1,878,264 | |

【物品】

| No | 寄付日 | 寄付者 | 寄付物品 |
|----|-------|------------|-----------------|
| 1 | 4月25日 | 木村敏子 | 女性用衣類・肌着、折り紙、毛糸 |
| 2 | 5月15日 | アネスト岩田株式会社 | 空気入れ2台 |
| 3 | 5月18日 | 竹蓋佳子 | 毛糸（アクリル）55玉 |

平成30年度 港北区社会福祉協議会決算概要

平成30年度決算については収入総額2億6,397万9,121円、支出総額2億443万7,680円でした。事業活動による収支差額は△88万6,601円となりました。その主な原因は共同募金配分金収入の減と諸謝金(ガイドボランティア等)、修繕費、業務委託費(区民意識調査、第三者評価)の増によるものです。また、遺贈物件を売却したことで施設整備等による収支差額は602万2,708円となりました。当期資金収支差額は513万6,107円。当期末支払資金残高は5,954万1,441円です。収入支出の内訳は、賛助会費、共同募金配分金が収入の51.8%、対する支出の51.7%を助成金が占め地区社協をはじめとする地域福祉活動の貴重な財源となっています。今後も新たな課題や法人運営の基盤強化、適正な運営に力を入れていきます。

資金収支計算書(P44)抜粋

(単位:円)

| | 収入① | 支出② | 収支差額③=①-② |
|--------------|-------------|-------------|------------|
| 事業活動による収支 | 102,573,787 | 103,460,388 | △ 886,601 |
| 施設整備等による収支 | 7,000,000 | 977,292 | 6,022,708 |
| その他の活動による収支 | 100,000,000 | 100,000,000 | 0 |
| 当期資金収支差額(小計) | 209,573,787 | 204,437,680 | 5,136,107 |
| 前期支払資金残高 | 54,405,334 | — | 54,405,334 |
| 合計 | 263,979,121 | 204,437,680 | 59,541,441 |

A 収入の内訳

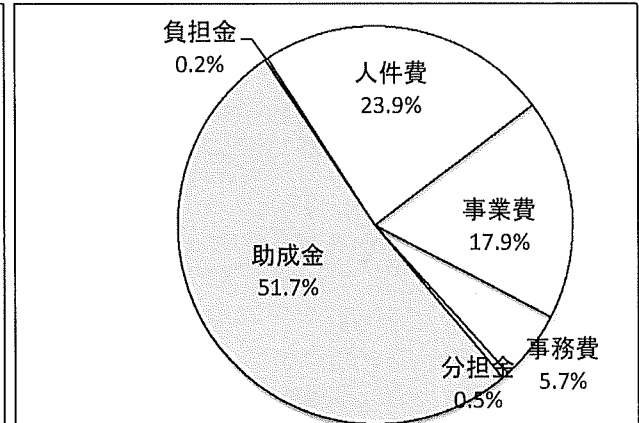
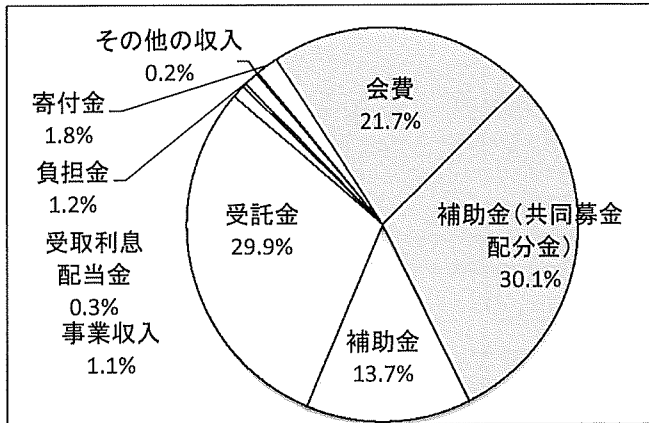
(単位:円)

| | |
|-----------|-------------|
| 会費収入 | 22,304,340 |
| 寄付金収入 | 1,878,264 |
| 経常経費補助金収入 | 44,963,523 |
| 受託金収入 | 30,646,771 |
| 事業収入 | 1,108,710 |
| 負担金収入 | 1,216,153 |
| 受取利息配当金収入 | 299,422 |
| その他の収入 | 156,604 |
| 合計 | 102,573,787 |

B 支出の内訳

(単位:円)

| | |
|-------|-------------|
| 人件費支出 | 24,681,111 |
| 事業費支出 | 18,560,734 |
| 事務費支出 | 5,932,457 |
| 分担金支出 | 553,134 |
| 助成金支出 | 53,485,702 |
| 負担金支出 | 247,250 |
| 合計 | 103,460,388 |



C 区分(事業別)毎の内訳

(単位:円)

| 区分 | 収入① | 支出② | 収支差額③=①-② |
|--------------|-------------|-------------|--------------|
| 法人運営 | 27,255,476 | 14,875,126 | 12,380,350 |
| ボランティアセンター事業 | 211,800 | 368,591 | △ 156,791 |
| 地区社協活動支援事業 | 650,000 | 15,050,958 | △ 14,400,958 |
| 福祉保健活動拠点運営 | 16,264,097 | 15,670,502 | 593,595 |
| 共同募金配分事業 | 30,904,147 | 31,295,924 | △ 391,777 |
| 善意銀行運営 | 1,878,264 | 0 | 1,878,264 |
| 送迎サービス事業 | 3,676,222 | 4,411,426 | △ 735,204 |
| 移動情報センター事業 | 8,899,853 | 8,449,078 | 450,775 |
| 権利擁護事業 | 652,610 | 585,751 | 66,859 |
| 地域福祉推進事業 | 282,000 | 289,136 | △ 7,136 |
| みんなの助成金配分事業 | 11,599,896 | 12,463,896 | △ 864,000 |
| 福祉基金 | 299,422 | 0 | 299,422 |
| 合計 | 102,573,787 | 103,460,388 | △ 886,601 |

平成30年度 資金収支計算書総括表

(単位:円)

| 区分 (事業ごとの会計) | 事業活動による収支 (日常的な資金の収支) | | | 施設整備等による収支 (固定資産物品の購入などの収支) | | | その他の活動による収支 (基金積立金や借入金などの収支) | | | 予備費 ⑩ | 当期資金収支 差額①=③+ ⑥+⑨-⑩ (今年度の予算 残額) | 前期末支払資 金残高⑫ (前年度からの 繰越金) | 当期末支払資 金残高⑬=⑪ +⑫ (来年度への 繰越金) |
|-----------------|--------------------------|-------------|---------------|--------------------------------|---------|---------------|---------------------------------|-------------|---------------|----------|---|-----------------------------------|--|
| | 収入① | 支出② | 収支差額③= ①-② | 収入④ | 支出⑤ | 収支差額⑥= ④-⑤ | 収入⑦ | 支出⑧ | 収支差額⑨= ⑦-⑧ | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 法人運営 | 27,255,476 | 14,875,126 | 12,380,350 | 7,000,000 | 666,144 | 6,333,856 | 857,782 | 14,863,600 | -14,005,818 | 0 | 4,708,388 | 15,033,529 | 19,741,917 |
| ボランティアセンター事業 | 211,800 | 368,591 | -156,791 | 0 | 0 | 0 | 190,000 | 0 | 190,000 | 0 | 33,209 | 2,094,846 | 2,128,055 |
| 他区社協活動支援事業 | 650,000 | 15,050,958 | -14,400,958 | 0 | 0 | 0 | 14,400,958 | 0 | 14,400,958 | 0 | 0 | 5,124,909 | 5,124,909 |
| 福祉保健活動拠点運営 | 16,264,097 | 15,670,502 | 593,595 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 593,595 | 892,168 | 1,485,763 |
| 共同基金配分事業 | 30,904,147 | 31,295,924 | -391,777 | 0 | 311,148 | -311,148 | 81,148 | 0 | 81,148 | 0 | -621,777 | 17,630,245 | 17,008,468 |
| 普恵銀行運営 | 1,878,264 | 0 | 1,878,264 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,548,360 | -1,548,360 | 0 | 329,904 | 6,435,195 | 6,765,099 |
| 送迎サービス事業 | 3,676,222 | 4,411,426 | -735,204 | 0 | 0 | 0 | 1,320,000 | 1,000,000 | 320,000 | 0 | -415,204 | 2,319,472 | 1,904,268 |
| 多動情報センター運営事業 | 8,899,853 | 8,449,078 | 450,775 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 450,775 | 2,121,586 | 2,572,361 |
| 権利擁護事業 | 652,610 | 585,751 | 66,859 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 66,859 | 444,696 | 511,555 |
| 地域福祉推進事業 | 282,000 | 289,136 | -7,136 | 0 | 0 | 0 | 61,494 | 0 | 61,494 | 0 | 54,358 | 300,407 | 354,765 |
| みんなの助成金配分事業 | 11,599,896 | 12,463,896 | -864,000 | 0 | 0 | 0 | 800,000 | 0 | 800,000 | 0 | -64,000 | 2,008,281 | 1,944,281 |
| 福祉基金 | 299,422 | 0 | 299,422 | 0 | 0 | 0 | 100,000,000 | 100,299,422 | -299,422 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 102,573,787 | 103,460,388 | △ 886,601 | 7,000,000 | 977,292 | 6,022,708 | 117,711,382 | 117,711,382 | 0 | 0 | 5,136,107 | 54,405,334 | 59,541,441 |

法人単位貸借対照表

平成31年03月31日現在

法人：社会福祉法人 横浜市港北区社会福祉協議会
事業：法人全体

1 / 1
(単位：円)

| 資 産 の 部 | | | | 負 債 の 部 | | | |
|--------------|-------------|-------------|------------|--------------|-------------|-------------|------------|
| | 当年度末 | 前年度末 | 増減 | | 当年度末 | 前年度末 | 増減 |
| 流動資産 | 65,812,324 | 61,884,693 | 3,927,631 | 流動負債 | 6,270,883 | 7,479,359 | △1,208,476 |
| 現金預金 | 63,707,994 | 61,003,636 | 2,704,458 | 事業未払金 | 4,719,009 | 1,046,006 | 3,673,003 |
| 事業未収金 | 80,060 | 48,930 | 31,130 | その他の未払金 | 1,548,360 | 1,833,430 | △285,070 |
| 未収金 | 1,648,360 | 509,763 | 1,138,597 | 未払費用 | 3,514 | 4,599,923 | △4,596,409 |
| 未収収益 | 18,696 | 1,126 | 17,570 | 預り金 | 0 | 0 | 0 |
| 前払金 | 3,650 | 21,710 | △18,060 | 負債の部合計 | 6,270,883 | 7,479,359 | △1,208,476 |
| 前払費用 | 353,564 | 299,628 | 53,936 | 純資産の部 | | | |
| 仮払金 | 0 | 0 | 0 | 基本金 | 3,000,000 | 3,000,000 | 0 |
| 固定資産 | 227,888,928 | 237,374,448 | △9,485,520 | 国庫補助金等特別積立金 | 727,835 | 799,000 | △71,165 |
| 基本財産 | 3,000,000 | 3,000,000 | 0 | その他の積立金 | 222,940,021 | 222,940,021 | 0 |
| 定期預金 | 3,000,000 | 3,000,000 | 0 | 社会福祉事業基金積立金 | 222,940,021 | 222,940,021 | 0 |
| その他の固定資産 | 224,888,928 | 234,374,448 | △9,485,520 | 次期繰越活動増減差額 | 60,762,513 | 65,040,761 | △4,278,248 |
| 建物 | 0 | 9,716,315 | △9,716,315 | (うち当期活動増減差額) | △4,278,248 | 379,262 | △4,657,510 |
| 車輛運搬具 | 690,730 | 1,152,134 | △461,404 | | | | |
| 器具及び備品 | 1,233,097 | 540,898 | 692,199 | | | | |
| 社会福祉事業基金積立資産 | 222,940,021 | 222,940,021 | 0 | 純資産の部合計 | 287,430,369 | 291,779,782 | △4,349,413 |
| その他の固定資産 | 25,080 | 25,080 | 0 | 負債及び純資産の部合計 | 293,701,252 | 299,259,141 | △5,557,889 |
| 資産の部合計 | 293,701,252 | 299,259,141 | △5,557,889 | | | | |

計算書類に対する注記(法人全体用)

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 満期保有目的の債券等

償却原価法（定額法）による。

② 上記以外の有価証券で時価のあるもの

決算日の市場価格に基づく時価法による。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法による減価償却を実施している。

② 無形固定資産（リース資産を除く）

残存価額を0円とした定額法による減価償却を実施している。

③ リース資産

・ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法による。

・ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を0円とする定額法による。

(3) 消費税等の会計処理

当法人は、消費税等の会計処理として、税込方式による。

3. 重要な会計方針の変更

該当なし

4. 法人で採用する退職給付制度

該当なし

5. 法人が作成する財務諸表等と拠点区分、サービス区分

当法人の作成する財務諸表は以下のとおりになっている。

(1) 法人全体の財務諸表(第一号第一様式、第二号第一様式、第三号第一様式)

(2) 事業区分別内訳表(第一号第二様式、第二号第二様式、第三号第二様式)

当法人では、社会福祉事業のみであるため作成していない。

(3) 社会福祉事業における拠点区分別内訳表(第一号第三様式、第二号第三様式、第三号第三様式)当法人では、拠点が一つのため作成していない。

(4) 公益事業における拠点区分別内訳表(第一号第三様式、第二号第三様式、第三号第三様式)当法人では、公益事業を実施していないため作成していない。

- (5) 収益事業における拠点区分別内訳表(第一号第三様式、第二号第三様式、第三号第三様式)当法人では、収益事業を実施していないため作成していない。
- (6) 法人運営及び区社協実施事業拠点計算書類(第一号第四様式、第二号第四様式、第三号第四様式)当法人では、収益事業を実施していないため作成していない。
- (7) 拠点区分資金収支明細書(別紙3(⑩))
- (8) 拠点区分事業活動明細書(別紙3(⑪))
- (9) 各拠点区分におけるサービス区分の内容

ア 法人運営及び区社協実施事業拠点(社会福祉事業)

法人運営

ボランティアセンター事業

地区社協活動支援事業

福祉保健活動拠点運営

共同募金配分事業

善意銀行運営

送迎サービス事業

移動情報センター事業

権利擁護事業

地域福祉活動推進事業

みんなの助成金配分事業

福祉基金

6. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

(単位:円)

| 基本財産の種類 | 前期末残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 |
|---------|-----------|-------|-------|-----------|
| 普通預金 | 3,000,000 | 0 | 0 | 3,000,000 |
| 合計 | 3,000,000 | 0 | 0 | 3,000,000 |

7. 基本金又は国庫補助金等特別積立金の取崩し

移送車購入に伴い国庫補助金等特別積立基金282,000円を取崩した。

8. 担保に供している資産

該当なし

9. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位:円)

| | 取得価額 | 減価償却累計額 | 当期末残高 |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 車輛運搬具 | 4,501,636 | 3,810,906 | 690,730 |
| 器具及び備品 | 4,403,862 | 3,113,402 | 1,290,461 |
| 合計 | 8,905,498 | 6,924,308 | 1,981,191 |

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益以下のとおりである。

(単位:円)

| 種類及び銘柄 | 帳簿価額 | 時価 | 評価損益 |
|----------------------|-------------|-------------|-----------|
| 横浜市平成27年度第3回「ハマ債5」公債 | 20,000,000 | 19,943,480 | -56,520 |
| 神奈川県第230回公募公債 | 50,000,000 | 50,848,200 | 848,200 |
| 神奈川県第232回公募公債 | 50,000,000 | 50,737,300 | 737,300 |
| 神奈川県第232回公募公債 | 50,000,000 | 50,737,300 | 737,300 |
| 合計 | 170,000,000 | 172,266,280 | 2,266,280 |

11. 関連当事者との取引の内容

該当なし

12. 重要な偶発債務

該当なし

13. 重要な後発事象

該当なし

14. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし

財産目録
平成31年03月31日現在

法人:社会福祉法人 横浜市港北区社会福祉協議会
事業:法人全体

(単位:円)

| 貸借対照表科目 | 場所・物量等 | 取得年度 | 使用目的等 | 取得価額 | 減価償却累計額 | 貸借対照表価額 |
|-------------------------|-----------|------|---|-----------|-----------|-------------|
| I 資産の部 | | | | | | |
| 1 流動資産 | | | | | | |
| 現金預金 | | — | | — | — | 63,707,994 |
| 現金 | 現金手許有高 | — | 運転資金として | — | — | 43,450 |
| 小口現金 | | — | | — | — | 0 |
| 小口現金(一般) | | — | | — | — | 0 |
| 小口現金(共募) | | — | | — | — | 0 |
| その他の現金 | | — | | — | — | 43,450 |
| その他の現金 | | — | | — | — | 43,450 |
| 預貯金 | | — | | — | — | 63,664,544 |
| 普通預金 | | — | | — | — | 63,664,544 |
| 1 普通預金(一般) | 川崎信用金庫 | — | 運転資金として | — | — | 8,650,930 |
| 2 普通預金(共募) | 川崎信用金庫 | — | 運転資金として | — | — | 18,468,989 |
| 3 普通預金(善銀) | 川崎信用金庫 | — | 運転資金として | — | — | 8,313,459 |
| 4 振替口座(一般) | 大倉山郵便局 | — | 振替口座として | — | — | 2,212,706 |
| 5 普通預金(生福金) | 川崎信用金庫 | — | | — | — | 0 |
| 7 振替口座(世帯会費) | 大倉山郵便局 | — | 振替口座として | — | — | 8,012,922 |
| 8 振替口座(貸助会費) | 大倉山郵便局 | — | 振替口座として | — | — | 18,005,538 |
| 事業未収金 | 川崎信用金庫 | — | あんしんセンター利用料 | — | — | 80,060 |
| 未収金 | | — | | — | — | 1,648,360 |
| 未収収益 | | — | 日赤負担分 | — | — | 18,696 |
| 前払金 | | — | | — | — | 3,650 |
| 前払費用 | | — | 法人運営・ガイドボランティア保険料 | — | — | 353,564 |
| 仮払金 | | — | | — | — | 0 |
| 流動資産合計 | | | | | | 65,812,324 |
| 2 固定資産 | | | | | | |
| (1) 基本財産 | | | | | | |
| 定期預金 | 川崎信用金庫 | — | 法人運営として | 0 | 0 | 3,000,000 |
| 基本財産特定預金 | | — | | 0 | 0 | 3,000,000 |
| 定期預金(基本財産) | | — | 基本財産として | 0 | 0 | 3,000,000 |
| 基本財産合計 | | | | | | 3,000,000 |
| (2) その他の固定資産 | | | | | | |
| 車輛運搬具 | 日産セレナ他2台 | — | 送迎/外出支援サービス 地域福祉推進 | 4,501,636 | 3,810,906 | 690,730 |
| 器具及び備品 | 紙折り機他 | — | 法人運営業務に使用 | 4,403,862 | 3,170,765 | 1,233,097 |
| 社会福祉事業基金積立資産 | | — | | 0 | 0 | 222,940,021 |
| 普通預金(一般①) | | — | | 0 | 0 | 15,612,639 |
| 普通預金(一般②) | | — | | 0 | 0 | 37,027,382 |
| 国内公社債(横浜市平成27年度第3回ハマ債5) | 野村證券 | — | みんなの助成金、身近な地域のつながり・支えあい活動推進事業、地区社協活動・小地域活動の支援を推進するための原資 | 0 | 0 | 20,000,000 |
| 神奈川県第230回公募公債 | 野村證券 | — | みんなの助成金、身近な地域のつながり・支えあい活動推進事業、地区社協活動・小地域活動の支援を推進するための原資 | 0 | 0 | 50,000,000 |
| 神奈川県第232回公募公債 | 野村證券 | — | みんなの助成金、身近な地域のつながり・支えあい活動推進事業、地区社協活動・小地域活動の支援を推進するための原資 | 0 | 0 | 50,000,000 |
| 神奈川県第232回公募公債 | みずほ証券 | — | みんなの助成金、身近な地域のつながり・支えあい活動推進事業、地区社協活動・小地域活動の支援を推進するための原資 | 0 | 0 | 50,000,000 |
| その他の固定資産 | リサイクル料預け金 | — | 移送車リサイクル料として | 0 | 0 | 25,080 |
| その他の固定資産合計 | | | | | | 224,888,928 |
| 固定資産合計 | | | | | | 227,888,928 |
| 資産合計 | | | | | | 293,701,252 |
| II 負債の部 | | | | | | |
| 1 流動負債 | | | | | | |
| 事業未払金 | | — | 保守・業務委託費 | — | — | 4,719,009 |
| その他の未払金 | | — | | — | — | 1,548,360 |
| 未払費用 | | — | 人件費・事務費 | — | — | 3,514 |
| 預り金 | | — | | — | — | 0 |
| 流動負債合計 | | | | | | 6,270,883 |
| 固定負債合計 | | | | | | 0 |
| 負債合計 | | | | | | 6,270,883 |
| 差引純資産 | | | | | | 287,430,369 |

(記載上の留意事項)

- ・土地、建物が複数ある場合には、科目を拠点区分毎に分けて記載するものとする。
 - ・同一の科目について控除対象財産に該当し得るものと、該当し得ないものが含まれる場合には、分けて記載するものとする。
 - ・科目を分けて記載した場合は、小計欄を設けて、「貸借対照表価額」欄と一致させる。
 - ・「使用目的等」欄には、社会福祉法第55条の2の規定に基づく社会福祉充実残額の算定に必要な控除対象財産の判定を行うため、各資産の使用目的を簡潔に記載する。
- なお、負債については、「使用目的等」欄の記載を要しない。
- ・「貸借対照表価額」欄は、「取得価額」欄と「減価償却累計額」欄の差額と同額になることに留意する。
 - ・建物についてのみ「取得年度」欄を記載する。
 - ・減価償却資産(有形固定資産に限る)については、「減価償却累計額」欄を記載する。なお、減価償却累計額には、減損損失累計額を含むものとする。
 - ・また、ソフトウェアについては、取得価額から貸借対照表価額を控除して得た額を「減価償却累計額」欄に記載する。
 - ・車輛運搬具の〇〇には会社名と車種を記載すること。車輛番号は任意記載とする。
 - ・預金に関する口座番号は任意記載とする。

監査報告書

令和元年5月28日

社会福祉法人横浜市港北区社会福祉協議会
会長 飯山 精三 様

監事 永野和子 ⑩

監事 秋元 存臣 ⑩

監事 家銅 雄一郎 ⑩

私たち監事は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの平成30年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告等（事業報告及びその附属明細書）について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

① 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

② 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

団体の概要

(令和 2 年 2 月 25 日現在)

| | | | | |
|---------------|--|-------------|-------------|-------------|
| (ふりがな) 団体名 | (しゃかいふくしほうじんよこはましこうほくくしゃかいふくしきょうぎかい) 社会福祉法人横浜市港北区社会福祉協議会 | | | |
| 所在地 | 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町 13-1 吉田ビル 206 ※法人の場合は登記簿上の本店所在地を、任意団体の場合は代表者の住所をご記入ください (市税納付状況調査(様式 8 同意書による)に使用します)。 | | | |
| 設立年月日 | 平成 5 年 4 月 1 日 | | | |
| 沿革 | 昭和 2 6 年 3 月 2 7 日 任意法人として設立 平成 5 年 3 月 2 2 日 社会福祉法人認可 平成 5 年 4 月 1 日 設立登記 | | | |
| 事業内容等 | <p>本会は、社会福祉法に規定された公共性の高い団体として、地域住民の福祉活動への参加を促進し、港北区における社会福祉事業その他社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的として活動しています。</p> <p>〈主な事業内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地区社会福祉協議会への活動支援 2 ボランティア活動の推進・支援 3 福祉教育・広報啓発事業 4 助成金配分事業 5 当事者活動支援 6 送迎サービス事業 7 権利擁護事業(あんしんセンターの運営) 8 移動情報センター事業 9 生活支援体制整備事業 10 相談事業(福祉相談、生活福祉資金等貸付事業) 11 港北区福祉保健活動拠点の運営 | | | |
| 財政状況 | 年 度 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 |
| | 総 収 入 | 114,308,169 | 270,581,645 | 227,285,169 |
| | 総 支 出 | 114,719,928 | 269,575,022 | 222,149,062 |
| | 当期収支差額 | △411,759 | 1,006,623 | 5,136,107 |
| | 次期繰越収支差額 | 53,398,711 | 54,405,334 | 59,541,441 |

| | |
|-------|--|
| 連絡担当者 | 【所属】 社会福祉法人横浜市港北区社会福祉協議会 【氏名】 ██████████ 【電話】 045-547-2324 【FAX】 045-531-9561 【E-mail】 ██████████ |
| 特記事項 | 次期繰越収支差額は、前期末支払資金残高及び固定資産等期末残高を含みます。 |